

月刊

AMDA

国際協力

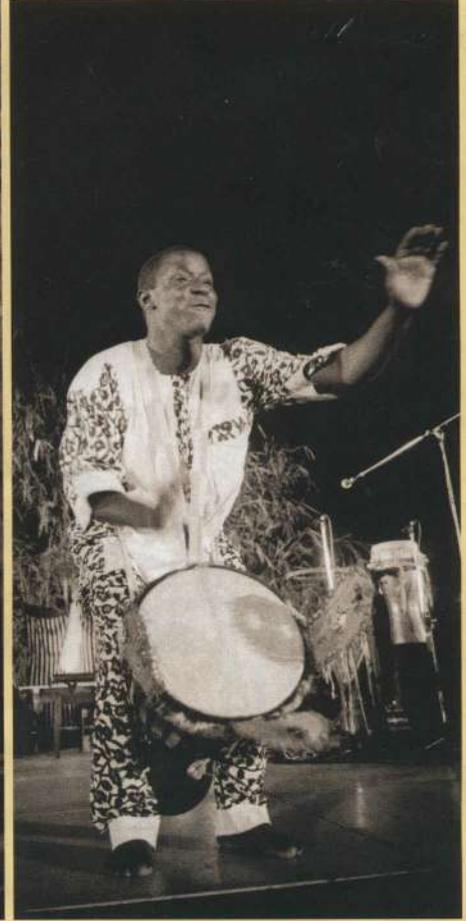
Journal

8

AUGUST

1998.8.1

(VOL.21 No.8)



インド・ボリビア・サハ緊急物資支援

AMDAインターネット特集

あなたから、AMDAへ
AMDAから、世界へ
あなたの愛をお届けします。

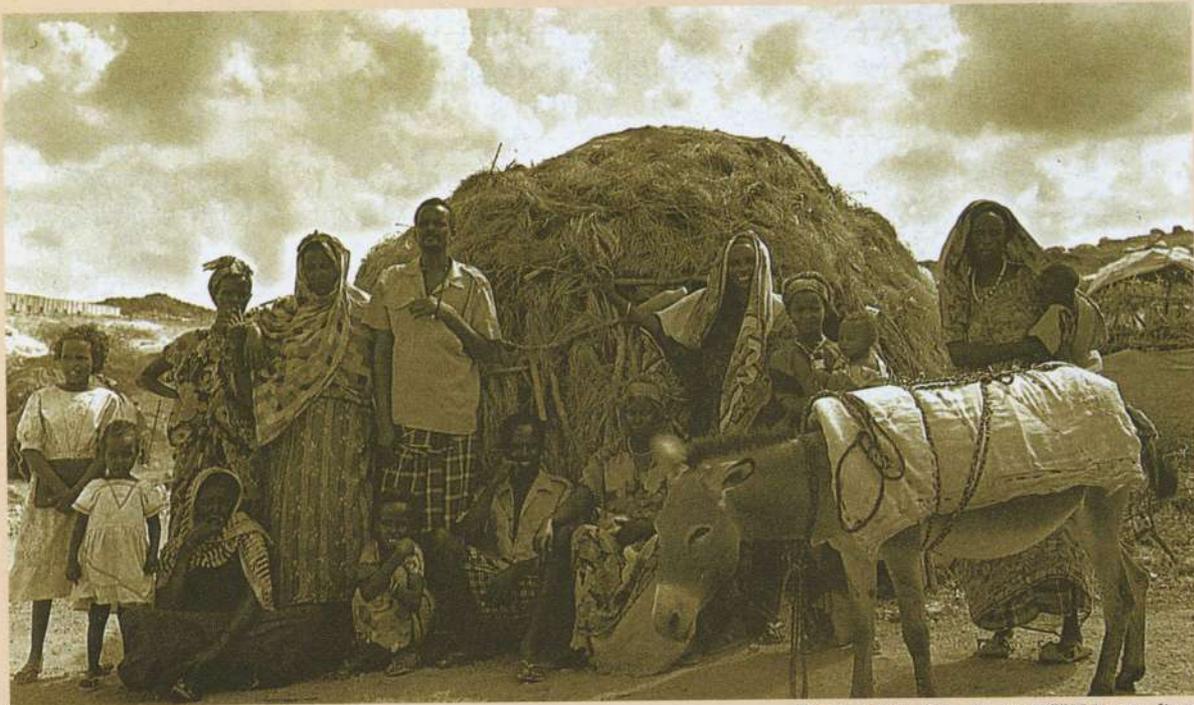


Photo: 鈴木 邦弘 ソマリア難民キャンプにて

AMDA
— アムダ —

ボランティア定期預金

▼ 定期預金をするだけで、気軽にボランティア ▼

- 税引後お利息の20%相当額(1回あたり1万円上限)を年1回AMDAへご寄付いただきます。(満期日に口座よりお引落しします。)
- 詳しい商品内容については当行窓口へお問い合わせ下さい。

あなたに、あたたかく。

 **中国銀行**

◆ インターネットでの当行のご案内は
<http://www.chugin.co.jp/>

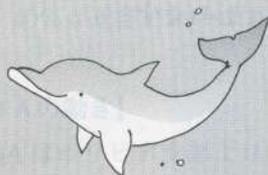
AMDA

国際協力

Journal

1998
8月号

CONTENTS



| | |
|---------------------|----|
| インド・ボリビア・サハ緊急物資救援報告 | 2 |
| AMDAインターネット 特集 | 6 |
| ミャンマー・ネパール研修報告 | 16 |
| 草の根資金プロジェクト | 18 |
| 吉田 修のクローズアップ | 20 |
| JANAN フォーラムダイジェスト | 22 |
| 国際協力ひろば<学校> 平福小学校 | 24 |
| 〃 <企業> ヒカリエンタープライズ | 26 |
| 〃 <団体> 土地改良事業団体連合会 | 28 |
| 〃 <地域> 神辺町社会福祉協議会 | 30 |
| 〃 <ひと> 北野真美 | 32 |
| 国際ボランティア貯金 | 33 |
| 国内防災訓練参加計画概要 (第二報) | 34 |
| AMDA 総会報告 | 36 |
| 栃木便り | 40 |
| 神奈川支部だより | 41 |
| AMDA 国際医療情報センター便り | 44 |
| 事務局便り | 48 |

表紙の写真



6月26日美星町中世夢が原で、「第3回 アフリカン・マエストロ」屋外コンサートが実施されました。

850名の参加者は、やさしいアフリカ、激しいアフリカ、元気なアフリカ、お茶目なアフリカなど、多様なアフリカに魅了されました。

AMDA 活動支援コンサート実行委員会
瀬政 光彦

AMDAインド・ポリビア・サハ緊急物資支援報告

この1ヶ月の間にAMDAではインド・ポリビア・サハで起きた自然災害の被災者に対する緊急物資支援を実施した。詳細は以下の通り。

AMDA事務局 竹林 昌代

インドサイクロン

【現地概要】

1998年6月9日、同国西部グジャラート州を大型のサイクロンが直撃し、大きな被害をもたらしました。6月15日に確認されている段階でグジャラート州で550名が死亡、850名が負傷、104名が行方不明となっており、27,000人が避難所での生活を余儀なくされた。

【AMDAの動き】

AMDAではインド支部からの要請を受け、被災者に対する物資援助を実施することを決定。インド支部

ではニューデリー在住のメンバーをボランティアとして送り現地調査を実施するとともに物資供与を行う。

【物資内容】

1. 医療物資 455 Kg…外科用のものを中心に医薬品、注射器、ギプス・点滴セットなど
2. ビニールシート 50 Kg

上記物資は6月18日12:00発のJAL473便により関西国際空港よりニューデリーに送られた。

このたびの物資輸送には日本航空より航空輸送無償協力のご便宜をいただいております。

中国銀行

1998年(平成10年)6月19日(金曜日)

印サイクロン被災者救済

ビニールシートや 医薬品など発送

AMDA

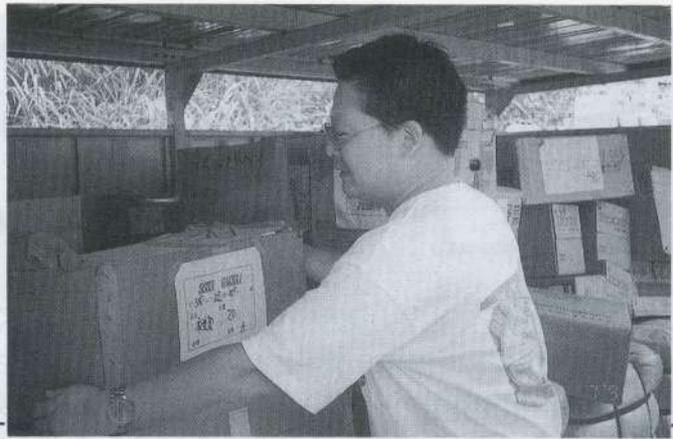
AMDA(アジア医師連絡協議会)は十八日、インド西部のグジャラート州を直撃した大型サイクロンの被害に遭った住民を救済するため、医薬品やビニールシートなどの物資を同州南部の被災地域に送った。

輸送は、日本航空の協力で計六百kgの物資を積んだJAL473便が正午、関西国際空港を出発。ニューデリー国際空港に到着後、現地の航空会社が無償で同州空港に届け、インドNGOスタッフがトラックで被災地域に運ぶ。

AMDAインド支部は物資到着後、インドNGOスタッフと連携して被災者の支援活動に当たる。

国連人道援助局からAMDAに入った連絡によると、九日、同州を襲った大型サイクロンで約五百五十人が死亡、約八百五十人が負傷、約百五人が行方不明となっているほか、計二万七千人以上が避難所で生活しているという。

物資輸送の準備をする
AMDA スタッフ



ボリビア地震

【現地概要】

南米ボリビアからの報道によると、同国中部アイキレとトラを中心に5月22日午前0時30分（日本時間同日午後1時30分）ごろ、続けて2回の大きな地震がありうちマグニチュード(M)5.9と6.8を記録した。その後の政府発表によると18,000人の人々が被災し、約85人が死亡、6,900人が家を失った。家屋1,500軒が倒壊、学校5つが被害を受け、水供給の35～40%が破壊、下水道の35～40%が破壊、電気・通信設備の35～40%が遮断されたままである。

【AMDAの動き】

AMDAはボリビア支部より3チームを派遣した。AMDAボリビア支部の派遣チームからの報告では、

気温0～6℃の被災地における子供を中心とした呼吸器疾患の蔓延が伝えられ、コレラの流行も発生しているとのこと。被災地ではテント、防寒用品、ビタミン剤などが不足していることを受け、AMDAは日本より冬用衣類とビニール・シート約800kgを救援物資として送ることを決定した。

【物資内容】

1. 冬用衣類 780 Kg
2. ビニールシート 20 Kg

上記物資は6月20日発のJAL064便により成田空港よりボリビアへ向け送られた。

このたびの物資輸送には日本航空(関西～成田～サンパウロ)およびロイド航空(サンパウロ～ラパス)より航空輸送無償協力のご便宜をいただいております。

山 陽 季 月 1998年(平成10年)6月19日 金曜日

ボリビア地震で 救援物資送る

AMDA

アジア医師連絡協議会（AMDA、本部岡山市櫛津）は十八日、五月二十二日に発生した南米ボリビア中部の大規模地震に伴う被災者救援のため、衣類などを送った。
救援物資は、冬物衣服とビニールシート計約八百kg。関西空港経由で被災地に送る。AMDAによると、被災地ではテントや毛布、ビタミン剤などが不足しており、コレラの流行も発生しているという。
AMDAは支援募金の協力も呼び掛けている。あて先は、郵便口座0125012140709「AMDA」（通信欄にボリビア震災と記入）。

山 陽 季 月 1998年(平成10年)6月26日 金曜日

口洪水被災者へ 救援物資送る

AMDA

アジア医師連絡協議会（AMDA、本部岡山市櫛津）は二十五日、五月中旬にロシア連邦サハ共和国で起きた洪水被災者救援のため、オーバー、セーターなど冬物衣服約一・五t（段ボール箱百四十箱）を送った。新潟空港からハバロフスクを経由し、他の救援物資とともに被災地に届けられる。
AMDAによると、現地は五月十五日ごろから雪解け水があふれ、六月十七日現在、十三人が死亡、約九千五百人が床上浸水し、約四万二千人が寒い避難所での生活を余儀なくされているという。
AMDAは募金での協力を呼び掛けている。あて先は、郵便口座0125012140709「AMDA」（通信欄に緊急輸送と記入）。

AMDA サハ共和国洪水緊急救援プロジェクト 救援物資輸送活動に参加して

AMDA 航空局 大森 章夫

はじめに

1998年5月15日から雪解け水による洪水が大河レナ川とアルダン川で発生した。被害人口3万人の「レンスク」はじめ、16の村が16日までに水没した。DHA-Genevaからの6月17日付けの現地被害状況とサハ共和国日本事務所の報告によると、概ね被害状況は以下のとおりである。

死者13名、行方不明者10名、水没地域101地域、避難住民約17万人、家畜(牛、馬)約1900頭死亡、床上浸水家屋9171、倒壊橋梁166、公共施設333、工場649、変電所158、病院3、診療所16、小中高40といった建物の被害が甚大である。また、一時住民の避難所においては伝染病も発生している。

AMDAでは6月18日より緊急救援物資支援策の検討にはいった。と同時にAMDAよりUNV/国連ボランティアとしてサハ共和国に

派遣されている塚本医師、3年前のサハリン大震災緊急救援プロジェクトでロシア政府、アエロフロート航空等へ交渉業務をおこなっていただいた日本空港コンサルタンツの大山氏へ協力を依頼。しかし、塚本先生とは連絡がつかず。

6月22日 大山氏がロシア大使館の紹介でサハ共和国副代表ニコライ・バラムィギン氏と接触する。その後6月26、27日のどちらかでロシア緊急事態省チャーターの航空機がハバロスクからサハ国内へ飛ぶとの情報を氏より受ける。AMDAとしては日本からハバロスクまでの物資空輸については既に調整に入っており、ハバロスク・サハ間に輸送手段および物資の受取人を見つけることが最優先課題であった。せっか

くAMDAの医師が災害発生当事国にいるのに、こちら日本では救援物資の送り先(受取窓口)をゼロスタートで探さなければならぬはがゆさがあった。

6月23日 AMDAはサハ共和国への緊急救援物資の提供を決め、岡山市内に保管してある衣料を新潟空港までトラックで運び、26日新潟空港発ハバロスク空港行のアエロフロート820便で送るスケジュールを立てる。まだこの時点でも物資の受取先が決まらず。また、今回お世話になった航空貨物混載業者「プロコエアーサービス」の石田氏も「このままだとサハ行予

定の無償チャーター機へ荷物が渡せない」と言われる。大山氏を通じてサハ共和国日本事務所に物資受入団体を探していただくようお願いする。

6月24日 具体的に救援物資輸送準備にはいる。AMDA事務局成沢さん、竹林さんに新潟までの陸



新潟空港での積み込み

送手続きを含め、相当量の業務をお任せする。急を要した荷物の仕入書作成もおかげで間にあった。プロコエアーサービスの報告で新潟税関が人道援助活動への特例扱いで、輸出審査の時間的短縮を図ってくれたとのこと。プロコさんの熱意もあり、うまくいったのだろう。恩にきる。

6月25日 午後2時、両備運輸トラックで、救援物資約0.9t、段ボール箱140個が新潟空港へと岡山を発つ。プロコの石田氏より、彼等のハバロスクの現地法人が情報のやり取りに動いてくれ、サハ共和国ハバロスク事務所代表が救援物資の受取になると決まると連絡あり。また、サハ国内までの無償チャーター機も救援物資が集まるまで待つとの情報が入る。

(http://www.amda.or.jp/)



6月26日 新潟空港へ関係者(在日サハ共和国代表部バラミギン氏、日本空港コンサルタント 大山氏、三浦さん、プロコエアサービス古郷氏、日本空港新潟支店仲野所長、新潟空港ビルディング川本氏、そして新潟空港からの救援物資輸送活動に多方面に協力いただいた新潟空港長の三崎氏)らが集まり、通関作業等をはじめ

マスコミ対応などに動く。予定より約1時間おくれで救援物資を乗せたアエロフロート820便が午後4時にハバロスク空港へ向け、関係者が見送るなか飛び発った。

6月26日 ヤクーツク赤十字とサハ・ハバロスク事務所との協議でハバロスクに着いた物資は鉄道利用で7月1日にハバロスクを出発することになった。約2日かけてサハ共和国のネリウングリ駅まで向かい、そこからトラックでそれぞれ被災地へ入るとのこと。

評価

いままで海外へ向けたAMDAの緊急救援で、サハリン大震災、中国雲南省大震災とその活動に参加してきた。その度に救援活動のイロハを結果学んできたつもりであるが、すべてに通じていえるのはやはり被災地からの情報の存在の大切さだろう。今回のケースで

は国連関係から救援の要請依頼が直接FAXでAMDA本部に届いても、直接被災地側のなんらかの組織へ活動の意図をつなげるのに非常に時間を費やした。政府間における国交の未熟さ。また個人レベルでもロシア語と英語により会話が不成立。サハ共和国は確かに存在上遠い国であった。しかし、遠い国を身近な国に置き換えるのが人道援助活動でもある。

今後我々にとって遠い国は多く存在するだろうし、被災地となれば情報収集は困難である。情報収集を間違えばかえって遠い国をよりそれ以上のものにしてしまう恐れもある。

緊急救援活動実施決定までには、人、金、物、そしてなによりも有効な情報の収集が必要であり、また、短い時間のなかでそれぞれをうまく決定していかなければならないという重圧ある職務に係わるスタッフも大事だという基本に学んだ数日だった。この原稿を作成している今頃、救援物資は被災民に届くころか。人道援助活動に燃える我々の前に課題はまだ山のように存在する。

サハ共和国(ヤクート)とは

国家機構 ロシア連邦に属する共和国。首都はヤクーツク。
 位置 アジア大陸北東部。東シベリアの北部で、南北2000Km・南2500Kmに広がり、北は北極海に面している。
 面積 3,103,200 平方Km
 人口 約 1,062,000 人
 沿革 13世紀に中央アジアから移住、17世紀にロシア人がヤクーツクの基礎を築く。1922年4月27日ソ連邦の枠組みの中で、ヤクート自治共和国として建国。1994年に東京に在日サハ共和国(ヤクート)政府代表部を設置。

自然 国土全体が永久凍土地帯。夏季は30cm～3m50cmほど地表が溶ける。国土の40%が北極圏に位置し、72%がタイガ(針葉樹林帯)。夏と冬の温度差は100℃を越える。(夏は+40℃以上、冬は-60℃以下)。
 産業 鉱業、林業、畜産業、狩猟など。ダイヤモンドをはじめ金、銀、タングスチン、鉄鋼石、石炭、天然ガスなどの膨大な地下資源に恵まれている。
 交通 空路が中心。日本からは、新潟-ハバロフスク経由-ヤクーツク、または成田-モスクワ経由-ヤクーツクの乗り継ぎが一般的。内陸部は道路、河川を利用。鉄道は未発達。

インターネット ボランティア

— AMDA ホームページ作成のお手伝い —

岡山理科大学 総合情報学部
数理情報学科 大西 荘一

1. はじめに

NGOの使命は、権力で押し付けるのではなく、その活動を通じて、今何が問題でどのように解決しなければならないのかを訴えることにあると思う。そのためには情報発信が必須である。特にAMDAのように世界規模で活動する国際NGOにとっては全世界に向けての情報発信が極めて重要である。インターネットは、「全世界に向けての情報発信」が他のメディアに比べ、はるかに手軽に実現できる。AMDAはAMDA Internet Stationという名でインターネット上にホームページを開設して、世界に向けての情報発信を実現している。しかし、手軽と言えどもそれはテレビやラジオ等と比較しての話で、実際にはタイムリーに豊富な情報を発信するには、かなりのパワーと知恵が必要になる。そこにインターネットボランティアが望まれるのである。

2. ホームページ AMDA Internet Station

図1はAMDAホームページのトップページである。その構成は、What's NewとContentsからなっている。

What's Newはその時々のご災害情報>、<救援情報>、<イベント案内>、<Update News>、<AMDAジャーナル>などである。Update Newsは速報掲示板（開発者：岡山理科大学数理情報学科 北川助教授）であり、地域やタイトルなどで検索出来る機能もついている。AMDAジャーナルは月刊誌AMDAジャーナルの電子版である。Contentsは、<AMDAについて>、<入会案内>、<熱帯医学データベース>など定常的なものである。入会案内にはオンラインで入会申し込みが出来るような仕組みが作られている。

(<http://www.amda.or.jp/>)

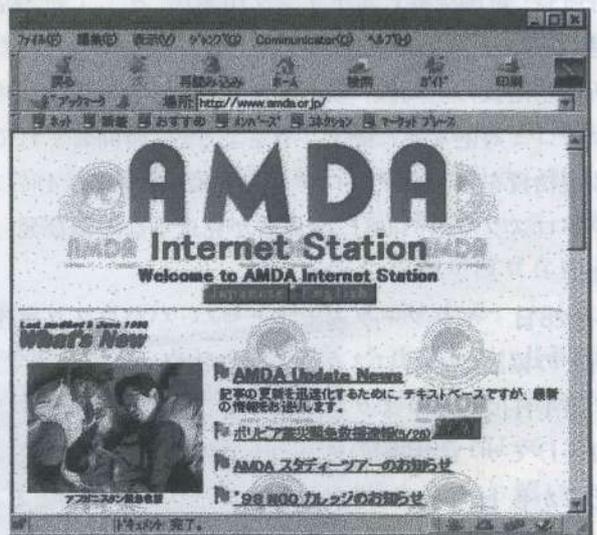


図1. AMDA ホームページ

3. アクセス件数

ホームページがどれだけの人に見られているかがアクセス件数である。表1は1997年12月から1998年7月2日までのトータルアクセス件数の表である。1997年は大体7万件/月から8万件/月程度で推移していたが、1998年1月から10万件/月を突破し、その後順調に増加し6月には15万件を突破した。7月は1日分のデータである。単純計算をすると7月は16万件/月を突破することになる。破竹の勢いである。98年1月から急に増加しているが、これは97年12月からAMDAジャーナルをホームページ上で公開したことが影響しているものと思う。ホームページのアクセス件数はコンテンツを更新すれば確実に増加する。定期的な更新が有効であるが、そのためには大きなマンパワーと良いコンテンツが必要である。

(<http://www.amda.or.jp/stat/index.htm/>)

(<http://mascot.mis.ous.ac.jp/>)

| 月 | 1998 | 1997 | 1996 |
|-------------|--------|--------|------|
| July 98 | 5577 | 4756 | 427 |
| June 98 | 167002 | 131917 | 8710 |
| May 98 | 141500 | 124297 | 8504 |
| April 98 | 135169 | 119867 | 8047 |
| March 98 | 129517 | 112296 | 7323 |
| February 98 | 126457 | 108762 | 6899 |
| January 98 | 123881 | 108833 | 7646 |
| December 97 | 80002 | 68167 | 4831 |

表1 アクセス件数の表

4. ホームページ作成の人と組織

先に述べたように、ホームページの更新にはマンパワーと良いコンテンツが必要である。AMDAには良いコンテンツは豊富にあるが、問題はマンパワーである。しかもパソコンの技術を持つマンパワーが要る。私が顧問をしている岡山理科大学インターネットクラブの学生がインターネットボランティアとしてその不足分を補っている。同大学数理情報学科の4名の教員がその活動をバックアップしている。

- インターネットボランティアを始めるにあたり次のことを考えた。
- ・学生が継続的なボランティア活動をするためには、先輩から後輩へ受け継ぐ必要がある。
- ・ホームページ作成の技術を教育し、その技術力を認定する必要がある。

そのために、インターネットクラブという学生クラブを組織した。インターネット教育システム「極め」を大西研究室で開発した。図2は「極め」のトップページである。AMDA委員になるには「極め」の技術レベル判定で3以上を取ることを条件にしている。現在、クラブの学生達は「極め」を使用して後輩を育てながらインターネットボランティアを実践している。頼もしいかぎりである。

表2はAMDA委員のレベル判定結果である。

| 氏名 | 点数 | レベル | 学年 |
|----|----|------|----------|
| A | 57 | 3 関脇 | 2 |
| B | 68 | 4 大関 | 4 |
| C | 47 | 3 関脇 | 4 |
| D | 45 | 3 関脇 | 4 |
| E | 96 | 5 横綱 | H10年3月卒業 |

表1 「極め」による技術レベル判定結果

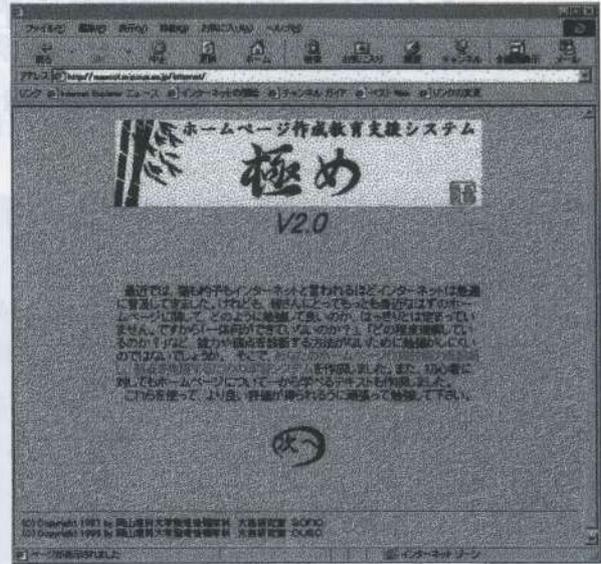


図2 「極め」トップページ

5. 教育効果

インターネットボランティア活動は教育的にも大きな効果がある。

- ・コンテンツが豊富にあるため、行き詰まることなくさらに技術力が向上する。
- ・AMDAの活動を通じて世界の紛争や環境を知り、世界情勢を理解することができる。
- ・世界から注目されているホームページを作成するという誇りと目的意識が、強い学習意欲につながる。表1の平成10年3月に卒業したEさんの例がそれを物語っているように思う。

6. 今後の課題

トップページをフレーム化しコンテンツを分類、英語ページの充実、等いろいろ改良点はあるが、何よりもAMDA全体を見渡せるトップページAMDA Internationalを作らねばならない。

ボランティア要員もまだまだ少ない。岡山理科大学の取り組みを他大学にも広げたい。学生たちが経済的にも安心して活動できる公的なインターネット環境の整備も必要である。NGO、産業界、行政、大学が連携しこれらを推進する必要がある。

7. 謝辞 学生を指導いただいている、AMDAの山本先生、沢田先生、竹林さん、その他関係諸氏に感謝いたします。

インターネットによる在日外国人への医療情報提供

AMDА 国際医療情報センター 庵原 典子

AMDА Internet Station 開設3周年、また、1ヶ月の平均アクセス数10万件突破おめでとうございます。全てのページをたくさんの方々がボランティアで作成し、それを1つの作品として構成していくことは、私のようにたったひとりでHTMLを書いているのとは違ったご苦労があるかとは思いますが、これからも、内容を充実させるべくお互い協力していきたいと思っています。

さて、今回この場をお借りして、AMDА国際医療情報センターのホームページ制作担当者として、作成の苦労と喜び、また将来の希望について書かせていただきます。

インターネットに関して全く素人である私が、かねてからの希望であったWeb Page 作成を実現出来たきっかけは、1997年3月にWorld NGO Network (通称WNN) というインターネットを使ってボランティアをしようというグループの主催した1日セミナーに参加し、ホームページの作成方法を教わる機会に恵まれたことです。一応何冊かの本を読んだりもしていたのですが、セミナーでレクチャーされたとおりに試験ページを作成し、初めてそれをWeb上で見たときに、私にも作れるのだという実感をもつことができたのです。そして、ホームページ開設に向けて内部の同意を得て、構想を練り、HTMLを書き、校正を終えるのには2ヶ月ほどかかり、ようやく同年5月22日に公開することができました。

実は当センターでは誰もがインターネットを使える環境にいるわけではありません。そのため、校正はモノクロ印刷したものを回覧し、文字で書かれた部分をチェックしているだけなので、背景の色やデザイン等は何の批評も批判も、受けていないのです。そんな訳ですから、デザイン的には自信があるはずもないのですが、なるべく軽くて、どんな環境下でも読めるページ作りを心がけたつもりです。ところが、最近イメージ画像の数が増えていることに気づきました。イメ

ジ画像の数が多いと見るのに時間がかかるので、これからは自重したいと思います。また、もともとの知識不足に加えて、パソコンのソフトやハードの進歩や、ホームページとはこうあるべきだという概念の変化といった情報もつかみにくく、これらに対応してページを更新し続けるのは、とても大変なことだと、この1年の間に段々わかってきました。

それでも最近、ぼつぼつではありますが、ホームページを見て下さった方から、協力医になりたいとの申し出があったり、出版物の注文が入ったりし始めました。現在は活動案内を日本語でのみ行っていますが、皆さんに何度も見に来ていただけるよう、内容を充実させたいと思っています。まずは今あるページの多言語化を図りたいと考えています。手始めに一部のページを英語に翻訳中です。また、私の個人的な希望ですが、医療・福祉・保険制度についての説明、頻繁に受ける相談のQ & Aといったページができればと思います。

Web上で相談を受けることについては、いくつかの問題点があり、とても難しいと考えています。第一の理由は、相談者自身が問題点をはっきり把握できていないケースがあり、それらは電話でのやりとりの中からはっきりしてることが多いということです。また、医療相談は大体において緊急性の高いものが多いため、電子メールでは十分な対応ができないのです。三番目の理由は、電話で情報を伝えるのと違い、きっちりとした文章にして回答するにはとても時間がかかるためです。

しかし、どの駅周辺の、何語を話す、何科の医師に、いつ診てもらいたいのか、保険を持っているのかどうか(自費の場合高く計算する医療機関を紹介しないようにするため等)がわかり、適切な医療機関をリストの中から選ぶことができるようなケースについては、いつかはc g i等を使って、多言語で対応できるようになればと思います。

★そんなわけで、翻訳、デザイン等も含めホームページ作成にご協力下さる方がいらっしゃいましたら、是非ご連絡下さい。

E-mail:amdask@osk.3web.ne.jp

URL: http://www.osk.3web.ne.jp/~amdask/

岡山市平福小学校の子供達の国際協力の結果

電子メールで勉強会 岡山 ←→ ブラジル

AMDA ブラジル支部代表 秋山 一誠

岡山では各自が出来る国際貢献が呼びかけられている。一般市民・学生の参加は多数例があり、今回、本誌98年1月号の24-27ページに記載された「21世紀の国際協力-私たちができることは何-」という活動の一部に参加させていただいた。去年6年D組の児童たちと発展途上国の保健について一緒に考えを展開していき(電子メールで)、10月には訪日した時に教室でみんなに話をする機会を与えていただいた。子供達の真剣な「目」が印象的であった。

同小学校では去年7月から自分たちでできる国際協力の一巻として募金を集め、当方AMDAブラジル支部が指定した「ミナスジェライス州ゴウベア市」の農村部の小学校に「今後に役立つ物」を寄付することに決定した。募金13万3077円はいろんな案の中から、「コンピューター式 (IBM 互換機)」を贈ることになり、筆者が代表で4月4日に現地での贈呈式に出向いた。

ゴウベアはミナスジェライス州の州都ペロオリゾンテから北へ260kmの人口1万5000人の町であるが、国連から世界貧困地域の1つと指定される「Jequitinhonha Valley」に属している。ここの小学校は市の教育局の管轄であるが、農村部に人口が多い(2/3)ので分校が15校、生徒数730人いる。教育の水準・状況は低く、小学校4年生までしかクラスがない(教育予算ならびに教諭不足のため)。一生「海」をみることも無いような子ども達が大半をしめ、人生に対する「機会」は最低である。

当日、各クラスの代表、教諭、校長、教育局長、市長、市の名士などが出席し、子供達と教諭達は始終エキサイトしていた。挨拶の他に、子供達の歌や詩の朗読があり、最後にみんなで梱包をあけた。

今回、以上のような所にコンピュータを贈ることになったのは、日本で試験的にInternetに接続された、



コウベア市の小学校での贈呈式(中央 筆者)



先進的な平福小のような環境にいる子ども達が、「機会」を与えるべきであると考えからであった。この器機は今後市教育局に設置され、普段は教材の作成に使用され、毎週土曜日にPIZO (Projeto de iniciacao a Informaticados alunos da ZOna rural-農村部学生コンピュータ入門プロジェクト)に使われる。「物」そのものだけのみならず、ほとんど忘れ去られている人達がこの様に地球の反対から「機会」も贈られたことに非常に感動していた。ゴウベアのみんなに代わって、平福小学校の子供達、今年卒業していった6年生たち、担当の青山先生、校長先生、ご協力いただいた関係者御一同に感謝と敬意を表したい。

非常通信協議会と防災訓練

◇
AMDA 日本支部副代表
岡山大学医学部公衆衛生学
山本 秀樹

「非常通信協議会」といっても初めて耳にされる読者の方も多いと思う。郵政省・地方自治体・電気通信事業者等の関係団体からなる災害などの非常時の通信に関するシステムづくりと情報交換を目的とする協議会である。東京の郵政省内に事務局をおく「中央非常通信協議会」の他、各地方に協議会が作られており、AMDAの属する中国地方では広島市にある郵政省中国電気通信監理局が「中国地方非常通信協議会」の事務局を行っている。

(詳細については、同事務局の郵政省中国電気通信監理局無線通信部私設課 〒730-8795 広島市中区東白島町19番36号 E-Mail: sisetu@cbt.go.jp もしくは <http://www.cbt.go.jp/> を参考にされたい)

「中国地方非常通信協議会」の平成10年度の総会が本年4月23日広島市であり、山本が総会の記念講演でAMDAがこれまで海外フィールドや国内の災害救援活動の場における情報訓練の重要性や岡山県情報ハイウェー実験の取り組み、防災訓練にインターネットを活用した事例を報告したことをきっかけに、同協議会としても今後地域防災計画や災害訓練においてインターネットを積極的に活用するために、AMDAとも協力していきたいということになり、例年行われる同協議会の中国地方の非常通信情報訓練においてインターネットを活用した情報通信訓練をAMDAと合同で実施することになったので報告する。

訓練の概要は以下の通りである。5月27日に広島県庄原市(広島県東部で岡山県境に近い)を震源とする直下型地震が発生し被害が出たため、広島市内の医療機関(広島通信病院)とAMDAが協力して医療活動を行うことを想定して情報伝達の訓練を、郵政省中国電気通信監理局、NTTドコモ、AMDAで実施した。

NTTの専用線に接続された郵政省中国電気通信監理局のメールおよびWWWサーバー(<http://www.cbt.go.jp/>)(図参照)に被災地とAMDA(岡山)からの状況報告をテキストとデジタルカメラで撮影した画像情報を送り、郵政省中国電気通信監理局ではホームページを立ち上げ関係機関に情報をタイムリーに提供するというものである。岡山県下の医療状況

(空きベッド、救急受け入れの可否)の報告には、平成10年3月にスタートした岡山県災害救急医療情報システム(<http://www.qq.pref.okayama.jp/>)も活用した。

AMDAでは平成7年に72時間ネットワークと協力して防災訓練時にインターネットを活用することをはじめ、平成9年度には東京都・茨城県において衛星通信網やインターネットを利用して動画の送信を行うにいたっている。今回使用したデジタルカメラと携帯電話のシステム自体は既にこれまでの、実験で使用しており目新しいものではないが、既に一般市民の間にも定着したデジタルカメラと携帯電話を使ったものである。AMDAにおいては、これまでインターネットと災害救援訓練に関しては岡山理科大学の学生さんをはじめとした情報ボランティアの人たちと利用して行ってきたが、行政機関と直に連携してインターネットを使用した防災訓練を実施したのは初めての試みである。従来の行政の作成する防災計画や災害訓練においては情報通信伝達手段として無線や非常用電話を使ったものが主流であった。

AMDAでは既に、1995年のサハリン大震災救援活動や1998年のアフガニスタン地震等の情報提供に衛星通信やインターネットを活用している。今後インターネットを活用した災害情報システムが行政にも導

~地域とともに 21世紀を拓く 情報通信~

Catch The Wave

中国電気通信監理局
のホームページです

| | |
|------------------------------|-------------------|
| 局長あいさつ | 中国電気通信監理局の概要 |
| 地域情報化施策 | 報道資料(6月5日更新) |
| 各種手続・制度案内 | 広報紙(4月27日更新) |
| 統計資料(5月11日更新) | Topics by Video |
| 各課のホームページ | 調査研究報告書(4月21日更新) |
| 中国地方における情報通信の現状 (4月27日更新) | 関連サイト |
| 中国ニューメディア懇談会 | 中国地方非常通信協議会(非常通信) |

This page is japanese only

入され災害医療の場においても医療ボランティアがより有効に活用されることが期待される。

今回の情報通信訓練に際して協力いただいた郵政省中国電気通信監理局施設課、NTTドコモ中国、岡山県情報ハイウェーキンググループ「NGOによるインターネット上でのブロードキャスティングシステム」、写真家西村肇諸氏に感謝申し上げます。

参考文献

1. 山本秀樹他、国際NGO-AMDAによる災害救援訓練

とインターネットの利用、コンピュータサイエンス、27-32、(4)1997

2. Yamamoto H. et.al, The role of Satellite and Internet for international disaster medicine, Abstract 106, The 3rd International Conference on the Medical Aspect of Telemedicine.

3. 菅波茂、山本秀樹他、平成9年度岡山県高度情報化推進協議会報告書「NGOによるインターネット上でのブロードキャスティングシステム」

非常通信訓練実施中の1

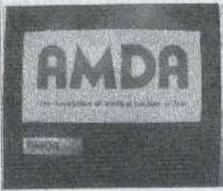
訓練概要について

本日のインターネットを使用した訓練は、「5月27日12時、広島県東北部を震源とする震度6強の地震が発生した。この地震により庄原市を中心に家屋の倒壊、火災の発生、電話施設の破損、道路・橋梁の破損があり多数の死傷者が発生した。」

という災害想定をもとに、中国電気通信監理局と被災想定地、岡山大学医学部山本先生(AMDA)及び広島通信病院の間で電子メールのやりとりと静止画像の伝送を行い、AMDAが医療救援を決定するというストーリーで行います。

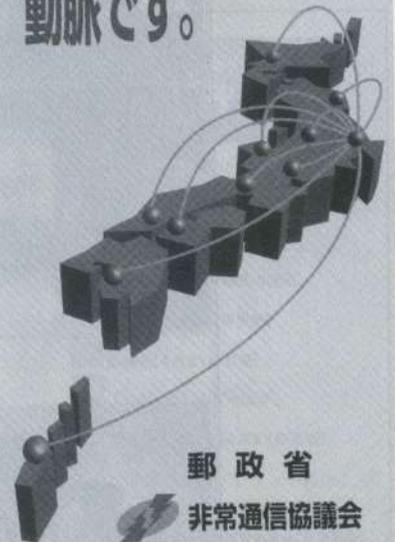
訓練時間は13時30分開始15時終了の予定です。

| 現場の映像 | 備考欄 | 電子メールによる情報 | 備考欄 |
|---|-------------------------|--|------------------------------------|
|  | 訓練開始 | | |
|  | 13:26現在 広島県から地震発生の通報 | | |
|  | 13:27現在 | | |
|  | 13:31現在 | To: sisetu@cbt.go.jp From: "梶田 精治" Subject: 訓練> (非常通信訓練) 5月27日12時、広島県東北部を震源とする震度6強の地震が発生した。 この地震により、庄原市を中心に家屋の倒壊、火災の発 | 被災地からの被災状況を当局へ通報(電子メール)被災状況を本部長に報告 |

| 現場の映像 | 備考欄 | 電子メールによる情報 | 備考欄 |
|---|---------|--|-----------------------------|
|  | 13:56現在 | From: "kawachi" To: "私設課" Cc: "梶田 精治" Subject: 静止画像の送付 Date: Wed, 27 May 1998 13:50:50 +0900 被災地からの静止画像を送付いたします。 | 被災地(庄原市)からの画像伝送の電子メールが到着 |
|  | 同上 | | 同上 |
| | | From:私設課 <sisetu@cbt.go.jp> Subject:静止画像の送付訓練 被災地より画像が送信されてきましたので送信します。 From: "kawachi" To: "私設課" Cc: "梶田 精治" Subject: 静止画像の送付 Date: Wed, 27 May 1998 13:50:50 +0900 被災地からの静止画像を送付いたします。 | 当局私設課から通信病院宛被災状況の静止画像を電子メール |
| 前のページにもどる。 次のページに移る。 | | | |

| 現場の映像 | 備考欄 | 電子メールによる情報 |
|---|--------------------------------------|------------|
|  | 14:10現在 AMDAからの 画像伝送 (岡山県庁) | |
|  | 14:10現在 AMDAからの 画像伝送 (岡山空港) | |
|  | 14:25現在 非常通信実施本部 の様様。 | |
| 前のページにもどる。 | | 次のページに移る。 |

非常通信は
いざ、という時の
動脈です。



郵 政 省

非常通信協議会

岡山県情報ハイウェーとAMDA



AMDA日本支部副代表
岡山大学医学部公衆衛生学
山本秀樹

AMDAインターネットステーションも1998年8月をもって開設4年目を迎えようとしており、本年4月にはAMDAのインターネットへのアクセスも10万ヒット/月に達したことはAMDAジャーナルの6月号において紹介した。インターネットによる情報の提供には豊富な内容とページの内容を更新するためのマンパワーが不可欠であるが、さらに高度な使い方を開発するための技術開発も必要である。AMDAでは、岡山県が全国に先駆けて始めた「岡山県情報ハイウェー（岡山県高度情報化推進協議会）」に参加してNGOであるAMDAがインターネットを利用した情報提供について研鑽をつんでいる。

「岡山県情報ハイウェー（岡山県高度情報化推進協議会）」についてははじめて耳にされた方も多いと思うので、簡単に説明しておきたい。岡山県が21世紀の情報化時代を先取りして都市と地方の情報格差解消をはかり地方の時代を推進するために、県内に県庁を中心とした光ファイバーを張り巡らせ、行政の組織を結ぶだけでなく県民LAN(local Area network)を構築して子どもからお年寄りまでインターネットを利用できるようにするというものである。その運用に関しては、行政に限らず官・産・学+「おたく」という具合にひろく一般の人が参加できるもので、平成8年度に始まり平成10年度までの3年間で公開公募されたワーキンググループのモデル実験にあてられている。（詳細は岡山県 <http://www.pref.okayama.jp/>、または岡山県高度情報化推進協議会 <http://www.okix.or.jp/>を参照）

AMDA関係では、「NGOによるインターネット上でのブロードキャスティングシステム（代表：菅波茂、略称：TVAMDA）」を中心に、「ホームページ作成支援システム（代表団体：岡山インターネットクラブ、本号で岡山理科大学大西先生が詳細を紹介）」、「緊急報道電子メールサービス（代表：NHK岡山放送局）」などのワーキンググループがAMDAと協力して実験に参加している。

本号では、「NGOによるインターネット上でのブロードキャスティングシステム（以下略称：TVAMDAを使用）」の概要について説明したい。このワーキンググループはAMDAが海外で行っている協力活動や海外の人との交流活動をインターネット上で紹介したり災害時の情報伝達手段としてインターネットを活用するための基礎的な実験を行うもので、平成8年度にはじまり同年はAMDAが参加した東京都荒川河川敷での防災訓練を静止画像でインターネット上に中継を行った。翌9年度は茨城県における防災訓練の様相を動画で中継を行うことに成功した。海外では昨年12月に実施された地雷の被災者の救援を目的としたアンコールワット国際ハーフマラソンの様相を衛星携帯電話であるインマルサットを使用して静止画像の中継を行った。今年度は、海外（ザンビア・ネパール・カンボジアを予定）の活動現場の動画による中継と岡山情報ハイウェーのネットワークとの無線LAN実験の実施を計画している。

これらの実験の成果として、AMDAが海外であるいは国内の災害時に行っている活動がリアルタイムで常にAMDAのインターネット上で流れるようになり、インターネットにつながればAMDAの活動を常に見ることができるようになりたいものである。そうすれば、月100万件のアクセスと「AMDAバーチャル放送局」の誕生も近いことと思う。次世代を担う子供たちに国際協力の生の情報が学校・自宅から得られることなど計り知れない社会的インパクトが生まれることと期待される。

参考資料

- 1) 中野知治、インターネット10万件突破パーティー報告、AMDAジャーナル、1998年6月号
- 2) 山本秀樹、アンコールワット国際ハーフマラソン、AMDAジャーナル、1998年2月号
- 3) 岡山県情報ハイウェー、日経マルチメディア、1997年12月号

熱帯医学データベースver.2.0の改訂によせて

◇
高橋 央

後楽ライオンズクラブのご支援によりAMDA本部にUNIXサーバが設置され、AMDAインターネットステーションがサービスを開始してから、この7月で3年が経過しました。

インターネットは1990年代最大の情報通信革命であり、21世紀はさらに日常的な情報伝達共有手段になるでしょう。90年代前半は私も含めてインターネットに精通している会員が少なく、またパーソナルコンピュータが今よりずっと高価だったため、何回かネットワークの導入を試みては失敗した経緯がありました。そういう点で、AMDAインターネットステーションが、この3年間に10万回を超えるサービスをこなした事に、「当初の努力が報われたなあ」と感慨を覚えると同時に、今後ますます拡大するであろう要請に、保守管理に当たってこられたボランティアの皆さんと共に、励んでいきたいと思っております。

熱帯医学データベースは、AMDAインターネットステーションの開設と同時にサービスを開始し、その後、記事の書き換えや画像の挿入を行って、内容の更新と充実を図ってきました。開設当時から英語版の要請があったので、一時試作に取り掛かったのですが、英語のインターネット情報は爆発的に増大したため、日本語情報に限定する方が得策と判断して中止しました。また私自身、転職して渡米したため、日本語版のアップデートも一時中断してしまっただけです。こちらの生活に少し余裕が出てきたのと、熱帯病研究の近年の進歩を考慮して、思い切ってデータベースの構成から改訂すべきと思い、今春から柵原病院のDr.ドーナツこと沢田寛先生とversion 2.0の改訂作業に入りました。

わずか3年の間に熱帯医学研究も大きな進歩を遂げています。最も顕著な分野はウイルス疾患であり、中でもHIV/AIDSはその筆頭に挙げられるでしょう。AIDSとは後天性免疫不全症候群の英語略で

すが、いまや熱帯地域では母子感染による先天性HIV感染症が大変な問題となっています。Ver.2.0ではそういう事情も鑑みて、エイズとカタカナ表記に変更しました。また再興感染症の問題もこの3年で大きくクローズアップされました。

エルニーニョ現象の影響か、特に今年は昆虫の媒介する病気が世界中で急増しており、東南アジアと太平洋島嶼部のデング出血熱の大流行、オーストラリアへの日本脳炎の初上陸、それにエクアドルのバルトネラ症の再現など枚挙に暇がありません。このような話題の病気を、ver.2.0では優先して改訂しています。新興感染症として、プリオン疾患を新たに掲載する必要も出てきました。

ニューギニア地方で死者の脳を食べる人たちに、クールーという神経疾患が知られていましたが、原因はその脳に未知の病原ウイルスが混入しているのだろう、という程度で良く分かりませんでした。ところが、英国で発生したウシ海綿状脳症（いわゆる狂牛病）が、プリオン（ウイルスに似ているが、DNAもRNAも含まれない感染性蛋白粒子）で汚染された牛肉を食することによってクールーとよく似た新変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(nv-CJD)を引起することが、この数年でほぼ明らかとなりました。さらに本年、以前に英国産の牛肉を食べた米国の女子高生が、この病気で死亡したことから、nv-CJDが世界中に広まっている危険性が示唆されています。私も狂牛病の騒ぎがあった当時ロンドンにいたので、内心不安なのですが、皆さんにも発病しないことを祈りつつ、先進国から熱帯へ拡散した可能性のあるこの病気も、ver.2.0で最新の知見の1つに加えようと決めたところです。熱帯医学データベースという名称も陳腐になってきた訳です。

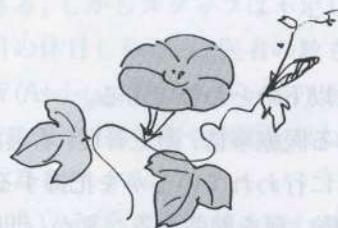
この3年間でもう1つ大きく変わったことは、インターネット情報に対する知的所有権の明確化です。90年代前半までは、インターネットの普及は研

究者が中心であり、ボランティアと善意が至る所に見受けられました。ところが今やインターネットでショッピングや入札といった商行為が国境を越えて行われ、そのためのインターネット接続業者が乱立する時代です。本来、熱帯の現場で保健医療活動をするAMDAスタッフのために開発されたこのデータベースも、AMDA会員以外の方々がメインユーザーになり逆転しました。

一方で、インターネットステーションの維持費は軽減しておらず、データベース上の広告収入も検討せざるを得なくなっています。そのため、ver.2.0では「データベースの知的所有権は学会にある」と明記することとしました。

データベースの維持管理には、相当な労力と忍耐を必要とします。地球の裏側にいる私が、岡山県北の山間に勤務しておられる沢田先生へテキストを送

信し、そこから沢田先生が本部事務局のサーバにアクセスして、更新ファイルを1枚ずつ手作業で差し替え、ハイパーリンクがうまく作動するか等の点検をして改訂しています。多くのインターネットユーザーはその苦勞を知りません。皆様からの叱咤激励がサーバを管理するボランティアの気力の源となっていることをご理解の上、時折webmaster宛てにコメントを頂ければ幸いです。



《AMDA WORLD NEWS》をめざしたい

AMDA代表 菅波 茂

AMDAインターネットステーション開設3周年記念を迎えるにあたりご尽力をいただきました岡山後楽ライオンズクラブ、NEC岡山支店、NECソフトウェア岡山、その他の方々に厚くお礼を申し上げます。

さて、AMDAの活動は多くの方々の善意から成り立っています。特に緊急人道援助活動に対する協力依頼や報告は迅速性が重要です。最も効果的な方法論はインターネットです。さらに英文で発信すれば世界中の人達に呼びかけることが可能です。そして活動の内容を知ってもらうことができます。

1998年5月22日にポリビアで発生した地震被災者に対する救援活動は下記の2点で感動的でした。

- (1) ポリビア支部が直ちに救援活動を開始し、刻々と現状と活動内容を報告してきました。
- (2) デジタルカメラによる被災現場の映像も送られてきました。

以上の内容をAMDAはインターネットを使って発信することができました。これはAMDAの夢である「AMDA WORLD NEWS」の可能性を示してくれました。「AMDA WORLD NEWS」はあの有名な「CNN」とまではいきませんが、AMDAの関与する緊急人道援助活動等をリアルタイムで発信したいという構想です。「CNN」に比べて有利な点は唯一つです。それはAMDA自身がニュースを作っていけることです。

AMDAは緊急人道援助活動以外にも多様な活動を展開しています。AMDAインターネットステーションはAMDAと多くの方々との情報の共有を可能にしてくれています。それを裏づけるアクセス数の増加は本当にうれしい限りです。

この誌面を借りまして、AMDAインターネットステーションに関わって下さっている方々に深く感謝申し上げます。そして、今後ともご支援とご指導をよろしくお願い申し上げます。

ミャンマー・ネパール研修報告

看護婦 吉川 祥永

私は以前から、アジア、アフリカの医療に興味を持っており、携わりたいと思っていた。そして、この研修の機会を得、ミャンマー、ネパールで研修をさせて頂いた。短い期間ではあったが、自分なりの収穫を得ることができた。簡単ではあるが報告をしたい。

研修目的は以下のとおりである。

- ①海外における医療事情、衛生管理、看護面での活動はどのように行われているかを把握する。
- ②日本へ帰国後、何を勉強するべきか、即戦力となる看護を身に付けるには、何が必要かを知る。
- ③現地の生活を体験し他国の文化、生活習慣を知る。

*ミャンマー (5月6日～5月12日)



メティーラ AMDA クリニック前にて

首都ヤンゴンから少し離れたメティーラという場所に、AMDA クリニック (医師の住居も兼ねる) があり、無医村で診療を行っている。検査施設がないため、症状をきいて、診断、投薬と治療を行

う。もし入院や、手術が必要な患者は、設備のある病院に行くよう勧める。しかし貧しいため、病院には行かない人が多いらしい。

肥満の人はおらず、痩せた人ばかりで、栄養失調の患者も多い。教育もほとんどの人が受けられないので、衛生観念も低い。そのため下痢、マラリア、コレラ、気道感染症、皮膚疾患等が多い。

巡回診療 (無医村に行き、診療を行う) に同行したが、130人位の患者が来た。週1回のこの日に、何



巡回診療

時間もかけて歩いて来る人もいるらしい。村の生活は電気、水道、ガス、道路も整備されておらず、食べ物も十分ではなく、入浴もしない人が多いため、衛生面では良いとはいえない。脱水、感染症、高熱の患者も多い。

アレイワという地区では診療のほかに、週3回、子どもたちに食事の配給をしている。この地区では栄養失調の子どもの数は少ないようであった。

貧困層の人々にとって、無料診療は有難く、ましてや診療と同時に衛生教育も行っているため、少しずつでも衛生観念が改善できていけばと思った。

*ネパール (5月13日～6月19日)

カトマンズでは、AMDA ネパールのオフィスでの金、土曜日以外のクリニック業務、地元の私学学校と連携しての生徒への上層教育を見学した。実際の活動は見るこ



AMDA ネパールオフィス

ができなかったが、現地の人々を対象にした衛生教育等も行っているとのことである。

パシュパティ高齢者センターには身寄りのない老人が住んでおり、AMDAでは週1回の医療提供を行っている。慢性の肺疾患、精神病、高血圧等をもつ高齢者がほとんどである。



ストリートチルドレンセンター

また AMDA が週1回診療を行っているタンコット眼科及び母子保健クリニックの眼科と一般外来を行っている施設と、ストリートチルドレンのためのクリニックの施設の見学も行った。

日本政府の資金援助で建てられ、ネパール政府が運営している看護学校も見学した。ネパールの看護婦制度は日本と少し異なる。この学校では卒業すると Staff Nurse となる3年制の P C L (Proficiency Certificate

Level) コース、その上のSister Nurseとなる2年制のP B B (Post Basic Bachelor) コース、さらに上級のMaster Nurseとなる2年制のMasterコースがある。授業はほとんど英語で行われている。なぜなら日本のように自国語の医学用語がないからである。他校では



AMDA病院(ダマック)救急病棟

2年制のA N M (Assistant Nurse Midwife)の養成も行っている。

AMDA病院があるダマックは、ネパールの南東部に位置する。そこは比較的、物質

的環境に恵まれており、井戸水も豊富で至る所に井戸がみられる。食材も豊富に揃っており、地区全体が緑豊かである。

ネパールの生活を少し紹介すると、食事は1日2回、ダルパートを摂取する。豆の汁(ダル)と米(パート)と野菜の炒め煮(タルカリ)である。宗教上、肉は鶏肉と山羊肉しか食べないが、高額のため行事、祭事、来客の時ぐらいしか食べられない。食事の時には右手を使用する。電気、ガスの普及は少ない。1軒に住む人数は7~10人程度で、1夫婦に5~7人程度の子どもがいる。住民の多くは無職、農家等で低賃金労働をしている人もいるが貧しい生活をしている。そのため食材が購入できず偏った食事摂取となり、栄養失調や夜盲症等の疾患を招いている。また、食前に手を洗わなかったり、生水を摂取したり、加熱不十分な調理や、不衛生な住居環境であったりということが原因となる下痢、腸チフス、赤痢、寄生虫病、皮膚疾患の患者も多い。その他、抵抗力のない小児の急性気道感染症(重症)、喫煙者が多いため慢性の肺疾患、水が原因と思われる結石、肝炎等の患者が多くみられ、生活習慣に伴う疾患がほとんどである。

十分な教育を受けていない者がほとんどで難しいと思われるが、衛生教育、家族計画教育は重要だと感じた。患者の多くはお金が無いため、病気になっても病院へ行くのを避け、状態が悪化してから仕方なく来院するため、結果的に重症となり入院や薬代の費用がかさむという悪循環である。しかし治療費が払えない患者がいても全く治療を中断してしまうわけにはいけないので、低コストで良い医療を提供していく判断は難しいと思われる。

システムの違いでは、日本では患者の情報は病院が保管するが、ネパール(ミャンマーでもそうであったが)では患者が自分自身の情報を保管し、カルテを持参して受診に来る。時間のロスが少なく、効率的なシステムであると思われる。その他、医薬分業もあげられる。診察を終えた患者は指示された輸液や抗生剤、内服薬を購入し、治療をしてもらう。入院患者であっても同様である。

来院患者はいつでも多く、重傷者、手術適応者が多いので、入院も多い。入院日数は2~3日の患者がほとんどである。しかしスタッフは不足しており、皆3~4日/月の休日しかない。医者数も少なく、救急ではA H W (Assistant Health Worker) が医者と同じ役割を果たしており、学生も実習を兼ねて勤務しており、医療行為を行っている。

看護面からいえば、患者の身のまわりの世話は家族が行うため、看護婦が医者の補助的役割の仕事が主であった。15~19床を1~2人で看るという人員不足のため、清拭などのケアも長期入院の患者にしか行えない。日本のように看護記録はなく、3交替(朝勤8時~14時・昼勤14時~20時・夜勤20時~翌朝8時)時の申し送りは患者のベッドサイドで行っている。患者の状態は良く把握できており、観察を行いながら、医者との連携も良いように思われた。看護婦は良い看護の提供をしたいと思っているが、慢性的な人員不足で思ったようにできないのが現実のようだ。

病院付属の学校で、臨床検査技士、A N M、C M A (Community Medical Assistant) の養成を行っている。C M Aの授業に参加させてもらったが、皆熱心に勉強していた。



AMDA病院の看護婦たちと

私は今後の課題として熱帯医学、一般的な疾患のさらなる修得、また語学、アジア・アフリカの文化、習慣等を勉強していきたいと思っている。

ミャンマーでは宮本さん、桑田先生、ミヤータンさん、ネパールではラメッシュ先生、フズダール院長先生、バタライ先生、ジャヌカさん、その他たくさんのお世話になった方々、ありがとうございました。

草の根資金プロジェクト

草の根無償資金協力とは、開発途上国の多様な援助ニーズに答えるための制度として、平成元年度より導入した制度で、開発途上国の地方公共団体、研究・医療機関、及び途上国において活動しているNGO等が実施する比較的小規模なプロジェクトに対し、当該国の事情に通じているわが国在外公館が中心となって資金協力を行うものです。（NGO支援ガイドブックより）

AMDAが草の根無償資金協力を得て行っているプロジェクトを紹介します。

1. AMDAのルワンダでの活動

1994年に起こった、歴史的な悲惨な出来事であるジェノサイドの直後、11月よりルワンダでの活動を開始した。ジェノサイドと内戦によって破壊され、ほとんど機能が麻痺した医療施設の修復を目的として活動を行った。

1996年11月には、1994年の内戦のためルワンダから逃れていた難民が大量に旧ザイール、タンザニアより帰還しはじめた為、医師、看護婦、コーディネーターからなる緊急援助チームを派遣し、ルワンダに駐在していたAMDAスタッフと合流して、帰還難民用の移動診療をおこなった。100万人に近いといわれた帰還難民に対し、1週間にわたり移動診療を行い、AMDAの医師と看護婦らが数百名にのぼる難民に診断と医薬品の投与を行った。

その後1997年、難民の帰還にともなう地域のニーズに応えるため、従来の活動規模を拡大させ、草の根無償資金協力を得て、キガリ近郊の9カ所の診療所の修復と医療支援と、帰還難民の再定住を促進するために、150軒の住居の建設を行った。

1998年は、3件の草の根無償資金協力を得て、2件の医療援助と1件の地域開発援助を行なう。医療援助は、ルワンダ保健省との協力のもとでAMDAが行ったニーズ調査に基づき、ギタラマ県ギトウェ地区の総合的な医療サービスの向上を図る活動を行うこととなった。地域開発援助では、孤児のための職業訓練センターの修復を計画している。

2. 1998年活動

2.1. ギタラマ県ギトウェ地区医療サービス向上プロジェクト（ギトウェ地区病院修復事業、ギタラマ県ギトウェ地区診療所修復事業として2件の草の根無償資金協力を得ている）

2.1.1. 概要

1) 活動地域

ギタラマ県ギトウェ地区（病院1カ所、診療所4カ所）

- ・ギトウェ地区病院
- ・ギトウェ診療所
- ・カランビ診療所
- ・ムエンズエ診療所
- ・ムチュビイラ診療所

2) 活動目的

ギタラマ県ギトウェ地区の総合的な医療サービスの向上を図るとともに、病院、診療所の機能の充実を目指す。

3) 活動期間

1998年1月より12月までの1年間

4) 活動実施機関

- ・AMDAルワンダ
- ・ルワンダ保健省

5) 受益者

ギタラマ県ギトウェ地区、もしくは近郊に在住する約3万名の住民が、直接的にAMDAの活動によって恩恵を受けると見込まれる。

2.1.2. ギタラマ県ギトウェ地区の背景と現状

ギタラマ県ギトウェ地区は、ルワンダの首都キガリの南西約86kmに位置し、地区病院と4つの診療所を有する。これらの医療施設は、ギトウェ地区の住民と近隣の在住民あわせて約3万人に医療サービスを施している。

ギトウェ地区病院は、地域の住民の参加と寄付金によって建設が始められ、1994年のジェノサイドが起こる直前には、開院の準備が着々と進められていた。しかし残念なことに、ジェノサイドにともなう襲撃と略奪によって、建物、医療機器は破壊されてしまった。現在は地域住民の積極的な支援により、医師1名と看護婦10名の医療スタッフによって外来

と入院の医療サービスを行うまでになっている。

しかしながら、地区全体の医療サービスを中心的に包括する地区病院としては、さらなる機能の充実を目指すことが緊急の課題となっている。とりわけ、外科手術を行える設備を整え、医療スタッフのトレーニングを行い、ギトウェ地区の患者の外科手術のニーズに応えることが求められている。現在は、ギトウェ病院に外科手術を行える機能がないため、手術が必要な患者は80kmも離れたキガリまで行かなければならない。

ギトウェ地区にある4つの診療所は、比較的順調に管理、運営はされているものの、より充実した医療サービスを行うためには、施設の増築、修復、医療機器の購入を中心とするハード面の支援と合わせて、医療スタッフのトレーニング等のソフト面での支援も欠かすことはできない。

2.1.3. ギトウェ地区病院並びに診療所支援概要

1) 包括的な医療サービス向上の為の技術支援

AMDAのメディカル・コーディネーターを中心に保健省の協力のもと、地域全体のヘルスケアの計画、運営に対する技術支援を行っている。医療スタッフに対する、プライマリー・ヘルスケアに関するトレーニング、実施指導等を中心に行い、医療スタッフのレベルの向上を図る。

2) 医療機器の贈与

ギトウェ病院の機能をより充実させるため、X線機械、顕微鏡等の医療機器を贈与している。特に、X線機械に関しては、外科手術のサービスを行うにあたって、必須となるため、今回の活動計画の中心的な役割を果たす。また、診療所に対しては、今後、不足している入院患者用ベッド、マットレス、毛布等の購入、贈与を計画している。

3) 医療施設の拡充

難民の帰還と人口増加に伴い、医療施設の拡充が強く求められている。AMDAは、ムチュビィラ診療所の、分娩室と産婦人科診察室、そして、入院患者用の病室の増築を行っている。あわせて、慢性的な水不足を解決するため、雨水の貯蔵タンクを設置する予定。

4) 医薬品の贈与

現在のルワンダの保健政策では、病院、診療所で投与される医薬品は、政府の管理のもとで配布されている。しかしながら、マラリア、呼吸器系感染症

患等の薬は、慢性的に不足している。とりわけ、マラリアの対処薬の不足は、直接、患者の生死に関ることになるため、AMDAは、不足しがちな医薬品を中心に供給している。

2.2. 職業訓練センターの修復計画

2.2.1. 概要

1) 活動地域

キガリ県ニャルゲンゲ市

2) 活動目的

*内戦によって破壊、略奪された職業訓練センターの修復と機材の購入

*孤児のための職業訓練による経済的自立の援助

3) 活動期間

1998年8月より1999年7月までの1年間

4) 活動実施機関

AMDAルワンダ

TABARABANA

5) 受益者

年間約100名の子供達が職業訓練を受ける

2.2.2. 活動概要

1) 職業訓練センターの修復

1994年のジェノサイドとの内戦によって破壊された職業訓練センターの建物の修復を行う。主な箇所は、教室、実習室の屋根の張り替え、外壁の内装修復、ドア、窓ガラスの入れ替えなどである。

2) 教材、実習機材、備品の購入

訓練センターの機材は一部を除いてほとんどがジェノサイドの最中に略奪されてしまい、現在も残っているものは机と椅子のみである。特に高価な実習機材は全てが盗まれた為、実習コースを行うには購入が必要である。

3) 訓練コースの開始

職業訓練センターでトレーニングする経緯は、建築、設計、溶接、裁縫の4コース。各コース定員は各々25名。トレーニング期間は1年間で講習と実技訓練がこの期間に行われる。

受講生は活動地域に住む孤児が中心となる予定だが、場合によっては、貧困層の家庭の子供も対象にされる。

吉田 修の クローズアップ

私の国際協力観の変遷

私のアフリカとの関わりは、1989年から青年海外協力隊でマリウイに派遣されたことに始まります。配属された大きな国立病院に外科医は私一人で、手術に明け暮れるような日々でした。臨床医として一人でも多くの患者を助けようと頑張りました。医者がいなくて困っているらしい、じゃあ行くか、というほどの単純な動機であったし、執刀したい年頃でもあり、大変満足していました。しかし、私が帰国するとその病院は元の状態に戻りました。技術を伝える相手さえいなかったし、後任の隊員は数年間来ませんでした。確かに何百人かの患者さんを救えたと思いますが、結局社会を良い方向に変えるインパクトはありませんでした。

帰国後は大学病院や県立病院で働きましたが、NGOで国際協力を続けたいと考えていました。そんな時にAMDAと出会いました。一ヶ月から半年ほどの幾つかのAMDAの活動に参加し、戦争や自然災害に対する緊急救援に関わりました。緊急救援は非常にエキサイティングな仕事です。突然大混乱の地に派遣され、調査し、計画をつくり、現地政府や国際機関と交渉し、実行に移す。もちろんそんな経験もなし、十分な資金があるで

なし、まさに突撃するような気分でした。

何万人、時には百万人以上の難民や被災者が短期間に出る場合、外国からの援助が必要です。特に国力のない発展途上国や内戦によるものでは、無政府状態になっています。緊急救援は誰かがどうしてもしなければならない重要な仕事です。しかし、短期間の救援ではその社会は変わらないことも痛感しました。

モザンビークでは、帰還難民のお世話をしました。長かった内戦で診療所も学校も破壊されていました。そのうえ干ばつが何年も続いています。ここで感じたことは、社会全体が良くならないと良い医療も維持できないこと、そのためには最低十年くらいの中長期的な計画が必要なことでした。

その後国際協力事業団との連携で、ザンビアで地域医療の計画作りをしました。プロジェクトサイクルマネジメント(PCM)という方法で住民参加の問題分析をしますと、ほとんどの問題は貧困に行き着きます。特に小児の死亡率が高い(5歳までに20%死亡)のは、直接は感染症によるのですが、根底には栄養失調による抵抗力の低下があります。農村では干ばつの影響、都市部では失業の問題なので

す。貧困がこのままでは、外国から医療だけ持ち込んでも一時しのぎにしかならないことは明らかでした。

予防や教育を重視した費用のかからない効果的な医療を追求するとともに、地域住民が計画段階から積極的に参加する様々な社会活動が必要と思われました。識字教育、職業訓練、小規模灌漑農業、小規模ローンなどの事業を同時に行わないと将来的にも医療のコストを社会が負担できません。

ザンビアで見た日本の援助（ODA）は、（無償資金協力で年間40億円）ほとんどが日本の商社とゼネコンが計画したものでした。40億円のパイを切り分けてなんとか消化するといった感がありま

す。これでは本当に困っている人たちの小さな声が反映されるはずがありません。日本の納税者もNGOとして積極的に支援に参加するべきでしょう。

もう一つ重要なことは、温暖化などの地球規模の問題です。真っ先に砂漠周辺の国々が甚大な影響を受けています。先進国が排出した二酸化炭素でザンビアの子どもたちが飢え死にしています。これは他人事ではなくて極近い未来の自分の姿です。先進国こそが自らの生活を制限してでも、持続可能な共生できる社会を築いて世界に貢献しなければなりません。というよりそれ以上に人類が生き延びる方法はないと思います。途上国まで出かけて行って何かするだけが国際貢献ではないのです。

先進国の大量消費文明を世界に広めるわけにはいかないのだから、援助という名の下にそれをアフリカに持って行ってはいけません。21世紀は、開発とか進歩とかの意味が大きく変わるでしょう。キーワードは「持続可能性」(Sustainability)、このまま続けても資源を消耗しないか、環境に負担をかけないかということです。

吉田先生は地元徳島県において、ザンビアでの救援活動の後方支援を行っておられます。その活動については、次号で紹介します。

ザンビアの子どもたちを救おう！

ザンビアは低開発途上国の一つで、近年もインフレが進み、国民の貧困状態も悪化している。子どもたちの半数近くが栄養失調状態で、保健衛生面でも安全な水の確保やトイレの普及等が急がれる。AMDAはJICAとの共同事業として1996年より「プライマリーヘルスケア」プロジェクトを展開している。

(関連記事 48頁)



JANAN フォーラム

ダイジェスト

JANAN ダイジェストは、国際協力ネットワークセミナー広島 (JANAN 設立記念フォーラム) にパネリストおよびコメンテーターとして参加された方々のお話をダイジェストで紹介いたします。

求められる協力体制

司会：最近日本の NGO というのは大変注目されるようになりました。海外で活動している NGO、およそ 300 と言われてはいますが、特に活動の場所はアジアが多くて、嘗てはカンボジア、タイ、ベトナム等が非常に多かったのですが、最近ではネパール、ミャンマー、ラオス等に活動の場を移して来て、いろんな実績を上げている NGO が多くなっています。また NGO というのは以前は福祉サービス活動が中心でしたが、最近の日本の NGO の活動は持続的な自立を促すような、非常に広範囲で、しかも深い活動に移行しているのが現状です。活動の分野も保健医療から教育、更に環境保全と、幅を広げています。そういう中で、3月19日に NPO 法が成立しました。これは優遇税制の問題とか、担当官庁がどう動かしていくか、まだ不透明な部分もありますが、少なくともボランティア団体に法人格を与えて活動が法的に保障されるという面で、一歩前進と受け止めてもいいのではないかと思います。この NPO 法が今後の日本の NGO/NPO 活動にどのような影響を及ぼして来るのでしょうか。

菅波 茂：阪神大震災で盛り上がったボランティア NGO を国づくり役に役立てようということで、NPO 法が成立したわけですが、阪神大震災後、ボランティアについて『売名行為』と称することが

無くなりました。本来日本はボランティアの無い国ではなくて、むしろ団体ボランティアとしては非常にボランティア先進国であり、町内会とか地域のために、皆さん汗を流していました。地域ぐるみ、組織ぐるみというのが日本のボランティア形式であり、個人で動くということは少なく、ともすれば売名行為と後ろ指を指されたりしたのですが、阪神大震災後は個人ボランティアも当たり前となり、市民権を得たと言えるでしょう。

NPO 法ができることによって、各団体が正式に登録されます。そうするとどの団体がどんなことをしているかが分かるようになります。従って個人ボランティアをしたい方が、どこで、どんなボランティアができるかを選択でき、非常に簡単にボランティア活動ができるようになったことが国内における大きな成果です。また国外的には、どこの国に私たちが緊急人道援助で行っても、登録されていない任意団体の場合は海外では信用がありません。なかなか仕事をさせてくれないという事実があるので。今後、日本の団体が海外に出て行く時に、NPO に登録されていますと、非常に海外で信用され、仕事がしやすくなると思われます。

浅野ジュン：福祉とか、地域づくりをやっていく中では、今、NPO 法が通ったということで、法人格を持って何がメリットかというと、

例えば事務所を構える時でも、代表が法人格を取っていると、それなりの信頼性とか、信用度が増すわけで、構え安くはなりますが、特に税制面で優遇があるわけではなく、結果的には自立してやらなくてはならない。NPO 法が通ると、即、企業が献金してくれるとか、行政から仕事してくるとか割と安易に考えがちですが、なかなかそのへんは難しく、自分たちでかなり自立してやっていかなければなりません。新聞等で NPO 法成立といういろいろ取り上げられていますが、当事者であるボランティアの人たちとか、福祉をする人たちが、民間主導型の地域づくりなり、NGO 主導型の支援活動なり、行政になんでも頼るのではなくて、自分たちなりの活動を行っていくという心根がないと、どうも NPO 法が通ったからと喜んでばかりはいられないと思っています。問題はたくさんあると思っています。

司会：NGO というのは国際協力活動を行う中においてネットワークの良さとか、活動は非常に草の根レベルであり、相手国のニーズをいち早く把握して、的確な支援ができるなどたくさんのメリットを持っています。しかしながら最大の弱点は、資金的な問題です。また、どちらかというとな唯我独尊型で、自分たちの団体だけの殻に閉じこもりがちです。JANAN というのはこうした NGO の弱点を打破



するために作られたわけですし、協力体制の中ですこしでも弱点が補われればと思っています。

他にどんな弱点があり、またどのように克服していけばよいと考えられているのでしょうか。

菅波：私たちはザンビアの首都ルサカの低所得者の健康問題に関するプロジェクトを行っています。現地の人々と色々話し合っている中で、いわゆる健康問題に関する知識教育だけでは不足で、貧困問題をその健康の中に取り入れてくれないと意味がないといわれました。そうするとAMDAは医療の専門家ですが、貧困に対する方法論を持っていないわけで、これは一つの大きな弱点と言えます。そこでその弱点をカバーするために、貧困問題のグローバルスタンダードであるマイクロクレジットの制度を取り入れたのです。この小規模融資制度を開発したバングラデシュのNGOと組み、ザンビアに招きました。しかしバングラデシュのNGOも、ザンビアの生活習慣が分からないため、現地スタッフによるAMDAザンビアというAMDAの支部を作り、AMDAジャパンとバングラデシュのNGOとAMDAザンビアの連携で、貧困対策をどうするか、健康教育と貧困問題をどう展開して行くかを検討しました。こうした連携のかたちで一つのプロジェクトを作り、それをODAの中に入れて、ODAの資

金で現在進行中という、NGOの弱点克服の例があります。

浅野：私たち中国地域づくり交流会はNPOではありません。今後もそうなるかどうかは決めていません。今は任意団体で、ある時期がきて環境が整えば、NPOに変わり法人格を持つこともあるかもしれません。ただ、後ろに交流会というのが株式会社を持っています。これは珍しいことだと思いますが、中国地域づくり交流会という任意団体を支えるために株式会社を持っているのです。8年間の活動の中で、いろいろと実験を重ねてきましたから、現時点ではこのままでやっていこうと思っています。

中国地域づくり交流会は700人の方がいて、年間3千円の会費ですから年間200万足らずのお金しか集まりません。ただ、株式会社を持っています。町づくりのために交流会を支えましょうということで呼び掛けて、一口5万円が、約160人くらい集まり、1600万円くらいの株式会社を作りました。但し、町づくりに夢を掛けましょうということで、配当金は無しです。株式会社があるからある程度の信用ができたのですが、これも事業をする上で、「あなたたちはボランティアをやっているのに、後ろに株式

会社を持って、これは営利団体じゃないの」と8年前からずっと言われてきましたが、最近有り難い事に交流会も認知されてきたようです。市民参加の町づくりということで、市民を入れて考えていかなければならない時に、いろいろ施策提案等してきましたので、最近、行政、国土庁、経済企画庁の方から、協力のお話がしばしば来ます。こうしてプロジェクトができるもので、黒字にはなりませんけれども、交流会を維持していけるという段階にまではなっています。

唯我独尊型でやっている交流会の人たちはネットワークの中で夫々が独自に活動していますが、交流会を維持する意味でも、活動の内容(プロジェクト)を事務局に発信してもらい、その個々のプロジェクトをコーディネートして、行政と共同プロジェクトを作るなど、活動しやすく調整したりもしています。8年間で蓄積された情報は、人材の情報だけでも3000件あります。また自治体の情報も町の概要等含めてかなりストックしています。このようにいつでも協力体制がとれる土俵を整えているのです。

学校

インターネットで国際協力学習

1年間の研究 (1997年度)

●岡山市立平福小学校

6年D組

早瀬

恵子

(平成9年度)

私たちは1年間、AMDAのことを研究テーマにとりあげ勉強してきました。

私たちがなぜAMDAを調べたり、募金活動を始めたかという、「世界の子供たち」というビデオを見て、たった今も2秒に1人の子供が死んでいる事を知ったからです。それを見て、これは大変だと思ひ、新聞記事でみたAMDAが私たちの住んでいる岡山市にあり、困っている人たちを助ける活動をしていると知ったので、AMDAを訪ねてみることにしたのです。

1学期は「AMDAのことを詳しく知り、自分たちにできることを考えてみよう」というテーマで勉強会をしました。そして、AMDAは自然災害や戦争などで困っている人たちなら誰でも助け、この国だから助けるこの国だから助けないということではなく活動していることが分かりました。このことから私たちは自分たちに何ができるか話し合い、募金活動をすることにしました。

2学期は6Dが調べていたブラジルに目をむけて調べることにしました。ブラジルにはAMDAの支部があります。ブラジルから電子メールでいろんな情報を送ってもらい、私たちも質問を送りながら、「母子保健開発プロジェクトの方法

や、乳児死亡率の原因」をAMDAブラジル支部の人と一緒に考えました。

10月にはAMDAブラジル支部の秋山先生が平福小学校に来てくださって、「国際理解とは何か」などたくさんのお話を教えて下さいました。乳児死亡率の原因は一言で言えば栄養不良と汚い水だそうです。ビタミンA不足から起こる栄養不足ときれいな水が飲めない生活からどうすれば乳児死亡率が減らせるか。そのためには、予防接種と清潔な水の用意と、トイレの設置が必要だそうです。でも実際には予防接種を知らない人が多く、清潔な水もトイレも用意できないのが現状で、助けられるのはわずかな乳児だけだと分かりました。このことから私たちは同じ地球に生まれた子供なのに、世界では救えない子供たちがいてかわいそうだと思います。秋山先生は、国際理解は国のことを知るだけでなく、かわいそうと思う相手に対する気持が大切だとも言われました。私たちの学校の募金活動は、6Dから全校に広がり、毎月1回、全クラスに6Dの代表が集めに回ります。クラスでこつこつ集めてくれたクラスもあれば、家族で話し合ってたくさん集めてくれたクラスもありました。そんな話を聞いて



たりしながら募金を集めている時、協力してくれてありがとうと感謝の気持ちで一杯になりました。最後に集めることになった2月は、募金箱を持ってくつばこの前で「募金お願いします!」と募金活動をしました。

募金の合計は133,077円になりました。私はこの合計金額をみて、お金の金額もすごいと思いましたが、なによりみんなが協力してくれたことがすごいと思ったし、嬉しかったです。小さな力でも集まると大きな力になりました。この募

金でブラジルのミナスジェライス州のゴウベイヤ市の小学校の子供たちが、心も体も元気になって、のびのびと楽しい学校生活を送って欲しいと思っています。

私たちは小学校を卒業したら国際理解の勉強をしなくなるかもしれませんが、けれども21世紀に向けて私たちに何ができるかと勉強してきたことは忘れずに、これからも考えていきたいと思えます。私は栄養不良で苦しんでいる子供たちのために、少しずつでもお小遣いを貯めていきたいと思ってい

ます。

このように自分たちにできることを考えて、やってみることを大切に、これからもがんばっていききたいです。



□インターネット特集の11頁に平福小学校の関連記事を掲載しています。

すべては「人間」のために…



21世紀の夢・80年の経験
蜂谷工業株式会社

取締役社長 蜂谷 俊夫

本社 岡山市鹿田町1-3-16

支店 東京・広島・倉敷・高梁

〒702-8048 岡山市福吉町18-7 TEL 086-263-5516

企業

ジュースを飲むだけで国際貢献

AMDA 支援自動販売機

● ヒカリエンタープライズ株式会社 (常務取締役) 小屋 良明



私はマニラで8年余り繊維関係や不動産関係の仕事をしていました。その当時、現地の人たちとの関わりの中で、日本という恵まれた環境に生まれ育った私の目には、現地の状況があまりにも凄まじいものに映っていました。さあこれからボランティア活動をします! と考えて始めたものではありませんでした。同じ人間として放って置けない現状でした。

少しの食事を大勢の家族で分け合いながら食べる、決してお腹いっぱいになる量ではありません、そんな食事をしている場所に私が顔を覗けると、必ず私にも食事をすすめてくれる、そんな国民性のフィリピンでした。最初のうちは、この扉の内側は日本で、外側がフィリピンだから、外はあまり気にしないように生活していた時期もありました。しかし何年も滞在しているうちに、フィリピン人は日本人の忘れてしまっている心をいまだに持っている、素晴らしい国民であると感じ、だんだんと私の人生観も変化しました。私の住んでいる家にもいろいろな人たちに出入りしてもらい、また招待されればたいてい顔を覗けました。大地震、2度のクーデター、ピナツボ火山の噴火と、私の住んでいた間にもこれだけ経験しました。

その度に私にできる小さなアクションでしたが、現地の人たちと一緒に頑張りました。ボランティアと言えることではありませんが、自然に動かされて、気が付いたら夢中で現地の人たちの中に入って、お腹のすいている人にお米を配り、着るものがなく裸で途方にくれている人に自分のTシャツを配り、何日もシャワーをせずに真っ黒に汚れている人にホースで水をかけて洗ってあげ、またミシン等を使って自立する手助けもしました。そんな小さい活動をしておりましたが、帰国していたある日、総社市を中心として活躍されている吉備路ロータリークラブのメンバーで、私の友人の田鎖氏とその奥さんにフィリピンの話をしたところ私の応援をして下さることになりました。吉備路ロータリークラブの大勢の方々のご支援により、一人で頑張っていた時に比べると大きな力になりました。この日本からの力強い応援を頂いた時の嬉しさは決して忘れることはないでしょう。

日本に引き上げて帰国し、このヒカリエンタープライズ(株)に入社し、サラリーマンを始めましたが、フィリピンでの毎日が変化に富んだ、自分の存在が多くの人たちに頼りにされていた生活が忘れられず、サラリーマン生活にもど

池端手池と田原塚とそれぞれ自分
たちの街に關係した施設を見学し
た。

見学時での説明はそれぞれの関
係団体にお願ひしたところ快く引
き受けていただいた。そして、当
日の田植えであるが、参加者の皆
さんにはお願ひしたく田は、實

かしさをを感じる毎日でした。

昨年11月、以前からの友人を久し
ぶりに訪問し、その友人が AMDA
支援団体の理事長をされており、
話が弾み、是非私も仲間に入れて
もらえるようお願いしました。
かつてフィリピンでいろんな活動
をしていて、吉備路ロータリーク
ラブの善意で応援してもらったこ
とを想い、今度は私が AMDA の
方々が最前線で頑張っておられる
のを応援できる！これが私の使命
の様に感じています。

すでに岡山、広島ではテレビ、ラ
ジオ、新聞で報道されました
「ジュースを普通どおりに自動販売
機で買って飲んでいただくだけで
国際貢献ができる！」。この企画を
我が社の社長に相談し、また支援
団体の理事長、AMDA、飲料メー
カー、自販機メーカー等、皆さん
のご協力で、日本で初めての AMDA
支援自動販売機が今年1月に登場
しました。現在までに岡山、広島、

兵庫、四国ですすでに展
開しています。これか
ら日本中に、AMDA
の活動の理解と外国に
遅れている国際貢献の
意識を広めるため、1
台でもたくさんの
AMDA支援自動販売機
が増えていき、AMDA
の活動に協力できるように努力し
ていきます。

私が小学校の頃、戦後の栄養不
足を補うためにユニセフミルクを
配給でもらったあのおいしかった
味が忘れられません。今、日本は栄
養過多で生活習慣病という贅沢病
が問題となっています。そして貧
困のため食糧不足で生きていくこ
とも大変な国があります。このア
ンバランスをこのままにしておい
て良いとは、誰も思っていないで
しょう。今こそ日本人はアクション
を起こさなければ、世界から孤
立するかもしれません。



私たちも AMDA 支援自動販売機
から始めていきたいと思ひます。
これから九州、大阪、そして日本中
に輪を広げていきます。日本中何
処にでも手配できます。個人及び
業者の方々のお問ひ合せをお持ち
しております。

今後とも全力で頑張りますので、
何卒ご協力の程よろしくお願ひ申
し上げます。

岡山市松新町678-11
ヒカリエンタープライズ(株)
TEL 086-943-2228

あした
未来を考える
システムの包装商社



パステム マツザワ

〒791-8016 松山市久万の台689 TEL 089-925-7811

パステム オカヤマ

〒702-8048 岡山市福吉町18-7 TEL 086-263-5516

団体

農業体験バスツアー

見直そうふるさと

『米は地球の贈り物』

岡山県土地改良事業団体連合会（総務企画課 草加 敏宏）

平成10年5月31日（日曜日）菜種梅雨の合間、珍しくよく晴れた一日であった。

我々岡山県土地改良事業団体連合会はAMDA本部に協力を頂き、かねてより計画していた農業体験バスツアーを実施した。

200人による田植えである。

満々と水が張られた土色の20aの田んぼは一時間あまりでじゅうたんを敷き詰めたように緑色に変わった。

初めての田んぼの感触、片手に持つ苗が見る間になくなっていく、腰を折り不自由な足元で一生懸命植えていく。30年ほど前はどこにでもあった風景である。子どもの頃は遊びたくても家族総出でこの作業をさせられたものである。今では見るのが珍しい風景になった。

手や足だけでは我慢できず全身泥まみれになりながら遊ぶ子ども、今日ばかりは泥まみれになっても笑ってすまされることであろう。

農業体験は都市交流で少なからず実施されている。

私たちが計画するツアーは食料を生産する農業とそれを育む農村、すなわちふるさとについて先人たちの努力を学んでもらうこと

を計画した。

私たちの岡山県は地形的には恵まれたところで、北に中国山地をおき、南に岡山平野が広がり、三本の大きな河川が瀬戸内海に注ぎ、日照時間も長く、古代吉備の国といわれた時代から栄えたところである。

先人たちは中国山地に降った雨を100Km離れた田んぼに引き込むよう様々な努力を重ねている。乏しい土木技術を駆使して川を堰き止め、田に水を引き込むよう水路を掘り、まるで植物が根から茎を通して葉の隅々へ水を送るよう自らの田んぼまで水を引いた。

街なかを流れる小川も近所のため池も本来はそういった意味で造られたものである。

そんなことから子どもたちが小学校で学ぶ、社会科のふるさとについて少し専門的に見てもらい田植えに取り組んでいただくこととした。

この現地見学については、岡山の人たちは児島湖の浚渫、江戸時代灌漑と運河の役割を兼ねて築造された倉安川、そして吉井川を堰き止め7000haの田に水を運ぶ田原堰。倉敷の人たちは酒津配水池と総社市三輪の大区画ほ場、そして白へび伝説が残る高梁川合同堰。津山の人たちは県下最大級のため



池塩手池と田原堰とそれぞれ自分たちの街に関係した施設を見学した。

見学地での説明はそれぞれの関係団体をお願いしたところ快く引き受けていただいた。そして、当日の田植えであるが、参加者の皆さんに体験していただく田は、賀陽町農業公社管理の水田で、後の管理も引き受けていただいた。

昼食については地元の主婦の皆さんが手づくりのおこわ弁当を準備して下さり、初めての方への苗の植え方や現場での田植えの進め方について農業改良普及センターに協力をいただいた。

さて、「食料」この場合米であるが、水と土と光によって育てられる米は、これは地球という大地が私たちにくれる恩恵であり、贈り物である。今確かに日本は米が余っていることも事実である。しかし地球上では多くの民が飢えに苦しんでいることも事実である。そんなことから、地球からの贈り物である農作物を私たちからの贈り物にしたいと考えた。幸い岡山県にはAMDAの本部がある。

AMDA広報局に連絡、この計画を相談したところ今後の協力を約束していただいた。またAMDAか



ら飢餓について話をしてくれることになり、当日は事業推進局のニルマル医師が「アジアの子どもたち」と題してその飢餓を含めた実状についてスライドを交えながら話をしてくださった。

21世紀の地球的課題は人口・食料・環境・エネルギーといわれており、化石資源を加工する工業と違い、種子に水と土と光を与えて食べ物を生産し、併せて次の種子を取得する農業は、自然資源を基本として成り立っているもので、究極のリサイクルとして21世紀の社会を築く中心となるのではないかと考えられている。人間の生命と健康を支えているのは食料であり、この食料を生み出すのが農業である。

参加者の方々に、そう、21世紀を担う子どもたちに農業体験を通じて食料の重要性、そして農業基盤を支える土地改良の重要性を少なからず訴えることができた一日であった。

収穫米の扱いは、AMDAの皆さんの力を借りて役に立てることができると信じている。

最後に休日にもかかわらず快く協力をいただき、このイベントを成功させるため努力して下さいました関係団体の方々に誌上を借りてお礼を申し上げますとともに、『岡山』の子どもたちが植えた苗がアジアの子どもたちへの友情の証となるため大きく育ち、黄金色に輝くよう豊穰を祈って終わりとさせていただきます。

おみやげ・喫茶・お食事

岡山駅名店街

ピーチプラザ

岡山駅2F 新幹線改札口前

地域

地域社会を支える人づくり
福祉教育推進支援事業の創設

福祉課長 仲井 賢行

広島県神辺町社会福祉協議会

神辺町社会福祉協議会（以下町社協）は特色ある社協活動を目指し、1997年度より独自の収益事業による事業を展開するため、福祉教育推進支援事業を創設しました。

福祉教育は人間尊重の精神を基盤として、児童・生徒ひとりひとりに福祉の心（自分も他人も共に生きる心）を理解させ、福祉社会を形成していく能力を育成する教育で、「共に生き、支え合う福祉の心」を体験学習を通して育て、人間形成を図ることを目的としています。

そして、実践を通して「違い」を認めて共に生きる状況をつくり、ひとりひとりがその状況を担う社会の一員としての自覚を持ち、「であい」「ふれあい」「ささえあい」の三つの「あい」を大切にした教育実践に努めるという目標を持っています。

町社協は、従来の社会福祉協力校（単年1校指定、10万円助成）の指定のあり方を改め、着実に継続・発展させる取り組みの必要から、学校と地域、施設を併せて指定する「総合指定」への脱皮に努めています。

また、協力校指定以降も、継続して活動が展開できるように次代

を担う子ども達との福祉社会を形成していくための核となり、思い切った取り組みができるように年間100万円を経費として助成することにしました。

その第一回目の指定校である神辺町竹尋（たけひろ）小学校は、AMDA関連の活動で大きな成果を挙げることができました。

神辺町とAMDAは、AMDAの代表菅波代表がわが神辺町の出身ということもあり、その活躍については町民皆が知っており、応援しようというムードが溢れています。

竹尋小学校では、1997年11月15日からAMDA写真展を校内で開催、12月16日にはAMDAの成澤貴子さんを招き、AMDAの活動状況などを児童対象に話して頂きました。

冬休みには、児童会が中心となって、AMDA募金と文房具を集める運動を行い、自分達でできることから実行することの大切さを学び、カンボジアの子ども達に送りました。

1月12日には菅波先生をお招きして講演会を開催し、活動理念や活動状況、ボランティアのあるべき姿について貴重なお話を伺いました。



この取り組みを通して同じ人間としてできることは何かを考えていくことの大切さと身近なことからの実践の大切さを児童ひとりひとりが掴んでくれたことが大きな成果だったと思います。

また、その波及効果として町社協が主体となり開催している「健康と福祉」の祭典である「かなべ福祉まつり」に親子での積極的な参加が多くなり福祉への関心と理解を深めることができました。

社会福祉法人「ゼノ少年牧場」の和太鼓グループの演奏を聴き、施設長さんから「すべての人間が共に生きるために何をしなければならぬか」について講演して頂く機会を持ちました。このように次々と成果があがっていますが、課題もあります。

それは、子ども達の中にやっと

ボランティアの心が芽生え始めたばかりで、まだ誰かに「してあげる」ことがボランティアであると捉えている面があり、一番大切な「共に生きる」という認識が根付いていないことです。今後も継続した取り組みをしていくことで、本当のボランティアを理解してもらうことになるのではないかと思います。

引き続き今年度、竹尋小学校ではAMDAを通じてカンボジアのチャムバック小学校との友好姉妹校の成立に向けて継続した取り組みが行われています。

このように福祉教育の推進に町社協の果たすべき役割は大きく、

協力校の活動が円滑に推進されるよう、資料や情報の提供、関係機関・団体などとの連絡・調整、研修会の開催を必要に応じて行うことにしています。

本年度の協力校である御野（みの）小学校においても引き続きAMDA関連の取り組みを計画しています。

町社協は福祉教育だけでなく、地域住民全体でAMDAの国際貢献活動に対する理解と協力を深めてそこから学んだことを地域活動に結び付けたいと思っています。

新事業の1年目は、地域社会を支える人づくりのための新たなスタートの1年でした。

JANAN会員募集中

日本NGO/NPO協議会とは

JAPAN ASSOCIATION OF NGOS AND NPOS

略称：JANAN/ジャンナン

JANANは、21世紀の新たな地域社会を創造するためのアクション・ネットワークとして、NGO/NPO、企業、大学、自治体、政府機関等の活力の向上と結集を図り、「地域おこしと国際貢献」を推進していきます。

■JANAN および 入会手続き等については、下記までお問い合わせ下さい。

広島県 国際交流課 〒730-8511 広島市中区基町10-52

TEL: 082-228-2111 (内線2643)

FAX: 082-228-1614

ひと

うれしそうな笑顔を見るのが楽しみ

北野 真美

わたしの母は10年前から広島県竹原市の老人ホーム「黒滝ホーム」で『散髪』のボランティアをしています。始めたきっかけは、同じ町内の理容師さんと一緒にしてほしいと誘われたからですが、今では母一人でしています。

母が理容師の免許を取得したのは10年程前です。もともとは父が経営していた理容院でしたが、父が他界したあと50歳を目の前にして職業訓練校に通い取得したものです。しか



左：わたし（広島県福山市在住）
右：母 藤原昌子（広島県安芸津町在住）

も、やっと免許がもらえるという時に交通事故に会い、左足、右手首を複雑骨折しました。これではもう散髪はできそうもないなと思っておりましたが、なんと母は入院中にハサミを持って手首の運動のリハビリを始め、そのうち入院患者を実験台に散髪をするようになったのです。

ホームでは月1回、1日で30～40人の散髪をします。「散髪屋さんがある日」には、朝から順番待

ちのカードを握って大勢のお年寄りが待っています。順番待ちをしている間、床を掃いてくれたり、一人では歩けない人を連れて来てくれたりします。

わたしも時々手伝いに行きます。と言ってもバリカンで坊主頭しかできませんが……。二人で頑張っても半日かかりです。一人だと丸1日かかります。同業者には「お金になるわけではないのに」と言われることがあるそうですが、母は、「お父さんが亡くなって途方にくれていたとき、散髪することで助けられた。今度は散髪することで何かのお役に立ちたい。ホームで散髪をしてあげてお年寄りの嬉しそうな笑顔を見るのが楽しみだ」と言います。我が母ながら頭の下がる思いです。

それまでボランティアというのは自分には縁遠いものだと思っていましたが、母がこのボランティアを始めてから、少しずつ興味を持つようになりました。わたしに出来ることといえばたくさんはありませんが、AMDAでのワープロの打ち込みや、倉庫整理のお手伝いなども良い機会だと思います。微力ながら少しでもお役に立てたらと思い、これからもボランティア活動に参加していきたいです。

国際ボランティア貯金

郵便局の国際ボランティア貯金は、開発途上国の人々の福祉向上（医療援助、教育援助、食糧援助、農業指導、環境保全、職業訓練）に役立てるため、郵便局の通常貯金・通常貯蓄貯金の受取利子の20%を寄付していただく貯金です。その寄付金は、NGO（民間海外援助団体：営利を目的としない民間・市民レベルの海外援助団体。その草の根レベルのきめ細かな援助活動のほとんどは、市民の寄付によって支えられている）を通じてさまざまな分野で役立てられている。

AMDAも国際ボランティア貯金の寄付金を得て、ネパールのビスヌ村地域保健プロジェクト、カンボジアの本国帰還難民救援医療プロジェクト、スーダンの国内避難民救援プロジェクト、ジブチのソマリア難民救援医療プロジェクト、そして昨年はアフガニスタンの国内被災民救援プロジェクトを行ってきました。本年度も寄付金を頂くことができ、6月29日に岡山市備前一宮郵便局で国際ボランティア貯金配分通知式が執り行われました。

この寄付金は、アフガニスタンのAZRAプロジェクト（AMDA Journal 1998.6 P9参照）において、難民の本国帰還を支援する医療活動に使われる予定です。



AZRA プロジェクト準備のため、アフガニスタンを訪れたニルマル医師。クリニック予定地前で



ジャララバート UNHCR オフィス前でスレンダー氏（中央）と

国際ボランティア貯金の配分通知式

AMDAへ 寄付金贈る

国際ボランティア貯金
本年度、郵政省の国際ボランティア貯金の寄付金がアジア医師連絡協議会（AMDA、本部岡山市榴津）に配分されることになり二十九日、同市一宮山の備前一宮郵便局で配分通知書が手渡された。

本年度、県内で交付を受けるのはAMDAを含め三団体で、AMDAには二千四百五十六万九千円が配分される。この日、同郵便局の小池彰和総務局長にAMDAの小池彰和総務局長に配分通知書を手渡し、小池総務局長は「貴重な寄付金を大切に使用して頂きます」と述べた。

寄付金はアフガニスタンでの母子に対する巡回診療や医薬品・医療機材の配備、保健衛生指導などに使われる。

国際ボランティア貯金は、通常貯金の利子二〇％を寄付してもらい、NGO（非政府組織）を通じて開発途上国の援助を目的に、平成三年に創設された。

AMDAの
小池総務局長（右）に
寄付金配分
通知書を手
渡す村野・
備前一宮郵
便局長

1998年(平成10年)6月30日 火曜日

平成10年度 国内防災訓練参加計画概要(第二報)

AMDA日本支部緊急救援委員会
市立札幌病院救命救急センター

早川達也

AMDAは、国内災害への対応に向けて、平成10年度は、行政、(社)全日本病院協会(以下全日病)、医師会等関係機関との連携など地域防災民間緊急医療ネットワークとしての組織的対応方策の整備と医療ボランティアの技量向上を目的として、以下の防災訓練への参加を行います。

参加希望の方はFAXまたはE-mailで、氏名、住所、年齢、職業・資格、連絡先(TEL、FAX、E-Mail Address等)をお知らせ下さい。

尚、個人負担の交通費等とは別に参加者全員に傷害保険への加入を含め、2000円程度の費用を負担をお願いいたします。

その他詳細につきましては、集合場所、集合時間も含め、追って参加希望者に連絡いたします。(下記の訓練開始時間は、訓練そのものの開始時間です。訓練会場によって、参加者の集合時間は異なっております。)

1) 全日病北海道支部病院防災訓練

会場：北海道札幌市手稲区手稲溪仁会病院

日時：8月22日(土)午後2時開始予定(1時間程度)

責任者：早川達也 AMDA緊急救援委員会委員長

地震による災害を想定した、全日病救急委員会が実施する病院防災訓練に、医療ボランティアによる全日病所属医療機関支援のシミュレーションを目的として、AMDA緊急救援委員会及びロジスティックス委員会が参加する。

参加訓練内容は、以下を予定している。

○手稲溪仁会病院による医療ボランティア受け入れ訓練救急車または、札幌市消防局ヘリコプターにて、AMDA及び全日病医療ボランティア・チームを手稲溪仁会病院まで搬送する。次いで同病院災害対策本部に対し、チーム到着を報告、医療救護活動を開始する。

○トリアージ及び初期治療訓練

院内トリアージ・ポスト及び病院前に設置したノルメカ社製エアテント内で、院内スタッフ及び全日病医療ボランティアと連携して、トリアージを主とした医療救護活動を行う。

●札幌市消防局ヘリによる後送病院への患者搬送訓練医療ボランティア同乗のもとに、重症患者を札幌市消防局ヘリコプターで被災地外へ搬送する。尚、ヘリ同乗予定者には、訓練前に講習を行う。

■申し込み、問い合わせ先

AMDA本部事務局(担当:岡崎悦子)

TEL:086-284-7730、FAX:086-284-6758

E-Mail:etsuko@amda.or.jp

〒701-1202 岡山市櫛津310-1 AMDA本部事務局

2) 茨城県北茨城市総合防災訓練

会場：茨城県北茨城市大津町大津漁港

日時：8月30日(日)午前10時開始予定(3時間程度)

責任者：鎌田裕十郎 AMDAロジスティックス委員会委員長

津波による災害を想定した、茨城県北茨城市総合防災訓練に、緊急救援委員会、ロジスティックス委員会が全日本病院協会救急委員会と合同で参加する。参加訓練内容は、以下を予定している。

○茨城県衛生部及び地元医師会による医療ボランティア受け入れ訓練

○応急救護所設置訓練(ノルメカ社エアテント設営)

○トリアージ及び初期治療訓練

トリアージを地元医師会と連携して実施し、設営したノルメカ社製エアテントをトリアージを終えた重症患者の待機ポストとして、全日病派遣医療ボランティアと連携して緊急検査、必要とされる応急処置の他、後方搬送順位を決定する。尚、初期治療は、日赤及び地元医師会が担当する。

○茨城県防災ヘリ及び航空自衛隊ヘリによる後送病院への患者搬送訓練搬送待機ポストより重症度及び緊急度の高い患者をヘリコプターで被災地外へ搬送することを想定する。搬送に際しては、AMDA及び全日病医療ボランティアが同乗する。

■申し込み、問い合わせ先

AMDAロジスティックス委員会

TEL:03-3609-6100、FAX:03-3609-7331

E-mail:kamata@amda.or.jp

〒125-0042 東京都葛飾区金町3-32-11 かまた医院2F

3) 東京都渋谷区合同総合防災訓練

会場：東京都渋谷区代々木公園B地区

日時：8月31日(月)午後7時開始予定(2時間程度)

9月1日(火)午前8時30分開始予定(4時間程度)

責任者：中西泉 AMDA副代表

地震による災害を想定した、東京都渋谷区合同総合



防災訓練に、AMDA及び東京都病院協会が合同で参加する。参加訓練内容は、以下を予定している。

- 東京都渋谷区による医療ボランティア受け入れ訓練
- トリアージ及び初期治療訓練

渋谷区により設置された医療救護所を受診した傷病者に対し、渋谷区より派遣された応援医療救護班として、トリアージ及び初期治療を行う。

■申し込み、問い合わせ先

AMDA本部事務局(担当:岡崎悦子)
TEL:086-284-7730、FAX:086-284-6758
E-Mail:etsuko@amda.or.jp
〒701-1202 岡山市榑津310-1 AMDA本部事務局

4) 静岡県総合防災訓練

会場：静岡県掛川市小笠山総合運動公園
日時：9月1日(火)9時開始
責任者：岡田真人聖隷三方原病院副院長

地震による災害を想定した、静岡県総合防災訓練における災害時医療救護活動訓練に全日本二輪車ボランティア緊急医療・救援機構(仮称)として医療ボランティア・チームを派遣する。

さらに航空自衛隊ヘリコプターによる重症患者県外空輸訓練に同乗医療ボランティアとして参加する。参加訓練内容は、以下を予定している。

目的は、オートバイによる医療ボランティアの派遣、自衛隊との連携による重症患者広域搬送のシミュレーションである。

- 全日本二輪車ボランティア緊急医療・救援機構による医療ボランティア派遣訓練

被災地外からの医療ボランティア・チームの派遣を想定して、JRB〔ジャパン・レスキューサポート・バイクネットワーク(本部・静岡)〕他と連携して、オートバイを使用して、医療ボランティア・チームを災害現場に派遣する。

- 静岡県掛川市による医療ボランティア受け入れ訓練・医療救護活動訓練

地元医師会等と連携して、応急救護所を設置し、各災害現場から救出された傷病者に対して、トリアージ、初期治療を実施する。

- 航空自衛隊ヘリコプターによる重症患者県外空輸訓練

被災地外からの医療チームの派遣と航空自衛隊ヘリによる広域患者搬送を想定して、東京都立川市よりAMDA及び全日病の医療ボランティア・チームを掛川市まで、航空自衛隊ヘリで派遣、災害現場で医療救護活動を行う。

ついで、重症患者を同ヘリにて立川市まで搬送、ついで国立病院東京災害医療センターに搬入する。AMDA及び全日病医療ボランティア・チームは、これに同乗する。

■申し込み、問い合わせ先

AMDA本部事務局(担当:岡崎悦子)
TEL:086-284-7730、FAX:086-284-6758
E-Mail:etsuko@amda.or.jp
〒701-1202 岡山市榑津310-1 AMDA本部事務局

5) 第19回七都県市合同防災訓練埼玉会場

会場：埼玉県吉川市吉川駅南特定土地区画整理事業地区内訓練会場
日時：9月1日(火) 開始時間は公表されず
責任者：沢田石順医師

地震による災害を想定し、発災時対応訓練を目的とする、第19回七都県市合同防災訓練に医療救護班として参加する。訓練内容は、以下を予定している。

- 応急救護所における医療救護訓練

被災地内に設置された応急救護所において、地元医師会等と連携して、応援医療救護班として、トリアージ及び初期治療を行う。

6) 本部事務局災害時プロジェクトたちあげ訓練

会場：岡山県岡山市榑津 AMDA本部事務局
日時：未定
責任者：菅波茂代表

災害時のプロジェクトのたちあげをより円滑に行うために、事務局担当者相互、関係機関への連絡、本部事務局員及びボランティアの役割分担、関係機関への連絡等のシミュレーションを行う。

尚、これらの訓練は、平成10年度厚生科学研究費補助金(7月6日現在、申請中)の助成を受けて実施されます。

1998年(平成10年)年度

AMDA総会報告

◇
総務局長 小池 彰和

本年度の総会は、初の試みとして、岡山・東京・神戸の3ヶ所を結ぶテレビ会議方式を採用して下記の通り行われました。議題や報告事項の全てが承認され、また、会の終わりの質疑応答の時間では活発な意見交換も行われまして、盛会裡に会を終えることができました。

ご出席頂いた会員の方々、今回ご出席頂けなかった会員の方々(このうち委任状を合計324名分頂いております)その他多くの支援者の皆様に厚く御礼申し上げます。

ご承認いただきました議題・方針を体しまして、今後ともよりよい活動を目指して執行部、事務局ともに最善の努力をしてゆく所存でございます。是非とも会員の方々をはじめ多くの方々からの暖かいご理解とご支援を賜りますよう、何卒宜しく申し上げます。

—— 総会内容 ——

- ・日 時：1998年(平成10年)6月21日(日)
13:00~14:30
- ・場 所：岡山会場 すこやか苑4階多目的ルーム
(AMDA本部隣り)
東京会場 アイオス五反田ビル2階会議室
(AMDA東京オフィス所在地)
神戸会場 毎日新聞社神戸支局ビル会議室
- ・出席者：岡山会場 17名
東京会場 15名
神戸会場 7名
合計 39名
- ・議 長：菅波 茂 AMDA代表
- ・司 会：小池 彰和 AMDA本部総務局長

■議題1. 97年度決算と98年度予算(別紙参照)

- ・財務局より報告の後、本年度は外務省ほかの助成金全体に削減傾向が見られることや、今後の景気動向によっては予算の下方修正もありえると説明があった。
- ・最近の円相場についての質問に応え「AMDAの収入が円で固定しているのに対し、支出の大半がドルのため甚大な影響を被っている。昨年予算編成時に115円だったものが決算時には135円に値下がりして円が2割目減りしてしまった。海外サイトでのドル支出には、一層の合理化が必要」と結ん

だ。

■議題2. 執行部の異動(別表参照)

■議題3. 広報局活動報告と今年度予定

- ・AMDA機関誌「国際医療協力」を昨年11月号より「AMDAジャーナル」に変更、広報局で編集、エイド企画が発行を担当。広く投稿を呼び掛けた。
- ・NGOカレッジを今年も広島県の協力で開催する。
- ・スタディツアーをAMDAで企画、YMCAエデュケーショナルトラベルとエフサンツーリストが主催する。
- ・イベント(各種バザー、支援コンサート、募金活動、パネル展など)に積極的に参加するが、岡山中心から岡山以外へも広げたい。
- ・昨年度の講演会は大小合わせて100回にも及んだ。
- ・昨年度は「はばたけ! NGO・NPO」を出版した。

■議題4. 海外プロジェクト活動報告

- ・事業推進局による報告に先立ち、菅波代表から概略方針の説明があった：

「現在目指しているプロジェクトは内容によって緊急人道援助(国内外)と地域コミュニティレベルにおける貧困対策を前提とした保健医療に二分できる。

1. 緊急人道援助

国内では、地域防災民間緊急ネットワーク、つまり、AMDA・全日本病院協会・全日本医師会の三者連携のネットワークを基盤とした防災体制の推進を計っており、厚生省や地方自治体との関係確立が主体となる。毎年9月には地方自治体との防災訓練に参加し、この成果の上に1~2月には、民間医療防災フォーラムで新方針を打ち出す。この定期的行事の繰り返して国内防災対策のバージョンアップを狙う。

海外では、APROなる組織でアジア太平洋緊急救援機構を構築し、各国のAMDA支部や他のNGOと組んでネットワークで海外災害に対処するし、海外拠点病院設置・設立にも広げて行く。

2. 地域コミュニティレベルにおける貧困対策を前提とした保健医療の向上

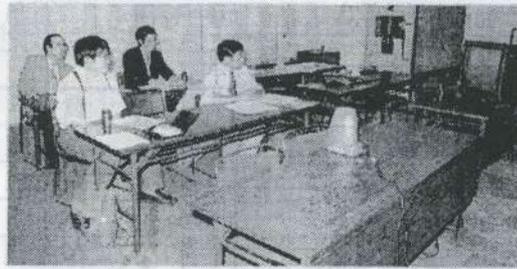
統一コンセプトとして「ABCプロジェクト」を掲げているが、これは自立支援と保健衛生教育をインテグレートしたものである。すでに総合的にこれを目指している所もあるが、単独では、職業訓練とか保健衛生プロジェクトとして、最終的な「ABCプロジェクト」への途上にあるところもある。

■議題5. 菅波代表による提案

「国内防災体制の在り方」

- ・国内外における災害緊急人道援助で今最も急を要することは、国内における防災体制をいかに早く

テレビ会議でAMDAが総会



初の救急医療の活用兼ね

岡山、東京、兵庫つなぎ

◎ 毎日新聞 ◎

国際医療NOOのAMDA(アジア医師連絡協議会)の今年度総会が1日、岡山市の本部、東京事務所、兵庫支部の3カ所をつないだテレビ会議で行われた。

1984年の正式発足から15年目の総会で、初の試み。国内の救急医療の際に活用できるかどうかのシミュレーションを兼ねて行われた。菅波代表がAMDAでやっていくのは緊急救援と「フイリレ」、ネットワークを以て、ネパールカンボジアを中心とした貧困地域での地域開発、ネパールカンボジア、ミャンマー、ザンビアの4カ所に災害拠点病院を整備し、国内では自治体と兵団の防災訓練を中心に、地域防災ネットワークの構築を進めたい」と方針を説明した。

3カ所での約40人、兵庫支部の会場となった毎日新聞神戸ビル会議室には連利博・支部長ら約10人が参加し、写真、活発な質疑応答を繰り返した。最後に菅波代表が「来年は15周年。AMDAに何ができ、何を求められているかが分かってきた。これまでは走りながらやってきたのを、もっと走る前に体制を整え、安定性を重視した運営していきたい」と述べた。

【菅波 新田】

確立するかである。AMDAではロジスティック委員会、緊急救援委員会、情報通信委員会の三委員会で対応してきたが、AMDA全体の基本方針、指揮系統とその業務については、まだ体系化ができておらず混乱を来しているのが実情である。そこで、早急に基本方針を策定して、それに拠って来る9月1日の各地方自治体との合同防災訓練に参加する必要がある。そこで、早川達也執行部にリーダーシップをとってもらい、7月末までに基本方針策定、8月第1週に検討を経て最終決定の上、9月1日に臨むことにしたい。これをAMDAの基本方針として国内外の災害に対する体制作りを寄与して行きたい。

この提案に全員賛成。早川執行部員の了承を得た。

■菅波代表による閉会の辞

・1984年AMDA発足以来、AMDAに参加する人達の興味と関心を第一義として伸張し、その中で海外フィールドでの仕事作りに当たってきて、今やAMDAは何ができるのか、何を期待されているのかが分かってきた。来年発足15周年を節目に、今後は参加者の能力を引き出し、業務を中心に再編成して、安定性を重点に打ち出したい。特に、防災訓練とか社会責任のある仕事に本気で当たるためには安定した体制・組織がいる。15周年を迎えるに当たり不安定な運営から安定さを全面に押し出した運営、これに伴った組織作りと運営を是非とも指向したい。また、この機に東京事務所の位置付け・役割を見直し、執行部で検討頂きたい。ご協力をお願いします。

◆役員(1997年7月6日現在)

●AMDA INTERNATIONAL

代表 菅波 茂 (アスカ国際クリニック院長)
事務局長 Francisco P. Flores医師 (東京大学医学部研究生)

●AMDA JAPAN

代表 菅波 茂 (アスカ国際クリニック院長)
副代表 小林 米幸 (小林国際クリニック院長)
中西 泉 (町谷原病院院長)
山本 秀樹 (岡山大学医学部公衆衛生学教室)
執行部 鎌田裕十郎 (かまた医院院長)
小宮 正巳 (NTT移動通信網(株))
沢田 寛 (柵原病院)
島津 渡 (島津歯科医院院長)
中野 知治 (総合病院姫路聖マリア病院外科)
早川 達也 (市立札幌病院救命救急センター)
早川 典之 (日本医学技術専門学校臨床検査技師)
三宅 和久 (アスカ国際クリニック)
連 利博 (兵庫県立こども病院小児外科)
和田 邦雄 (邦和病院院長)

1997年度 決算書

貸借対照表 1998年3月31日 単位 円

| 借方 | | 貸方 | |
|--------|-------------|-------|-------------|
| 現金 | 564,917 | 短期借入金 | 60,000,000 |
| 外貨現金 | 94,792 | 未払金 | 13,694,700 |
| 普通預金 | 13,408,893 | 仮受金 | 0 |
| 外貨預金 | 1,345,275 | 預り金 | 1,035,594 |
| 郵便振替 | 4,517,161 | 引当金 | 37,135,563 |
| 有価証券 | 499,800 | | |
| 未収金 | 125,824,191 | | |
| 商品 | 847,180 | | |
| 仮払金 | 1,713,636 | | |
| 立替金 | 277,867 | | |
| 貸付金 | 450,000 | | |
| 機器備品財産 | 8,469,078 | | |
| 敷金権利金 | 100,000 | 正味財産 | 46,246,933 |
| 合計 | 158,112,790 | 合計 | 158,112,790 |

減価償却累計額 4,021,468

事業費と管理費の区分

自1997.4.1 至1998.3.31 単位 円

収支計算書 自1997.4.1 至1998.3.31 単位 円

| 支出の部 | | 収入の部 | |
|--------|-------------|------|-------------|
| 渡航費 | 39,332,108 | 年会費 | 13,691,500 |
| 保険料 | 4,482,996 | 補助金 | 141,163,751 |
| 現地活動費 | 206,293,870 | 助成金 | 86,924,590 |
| 現地派遣手当 | 20,860,446 | 寄付金 | 190,623,116 |
| 現地雇用費 | 2,179,504 | 販売収入 | 4,175,989 |
| 輸送費 | 2,356,970 | 雑収入 | 8,230,215 |
| 車両費 | 5,182,433 | 広告収入 | 865,000 |
| 通信費 | 16,980,672 | 受取利息 | 34,219 |
| 医療費 | 8,994,130 | | |
| 備品費 | 515,536 | | |
| 事務消耗品費 | 4,834,549 | | |
| 記録費 | 497,289 | | |
| 会議費 | 2,953,485 | | |
| 旅費交通費 | 6,923,010 | | |
| 図書購読料 | 318,832 | | |
| 福利厚生費 | 4,522,821 | | |
| 水道光熱費 | 55,706 | | |
| 給与手当 | 43,794,085 | | |
| 業務委託費 | 1,787,503 | | |
| 印刷費 | 6,242,974 | | |
| 賃借料 | 4,859,187 | | |
| 修繕費 | 451,354 | | |
| 雑費 | 1,518,750 | | |
| 広告料 | 318,431 | | |
| 支払会費 | 472,279 | | |
| 租税公課 | 20,200 | | |
| 支払利息 | 401,014 | | |
| 減価償却費 | 1,669,984 | | |
| 正味財産増加 | 56,888,262 | | |
| 合計 | 445,708,380 | | 445,708,380 |

| 事業費 | | 管理費 | |
|--------|-------------|--------|------------|
| 渡航費 | 39,332,108 | 渡航費 | 0 |
| 保険料 | 4,238,226 | 保険料 | 244,770 |
| 現地活動費 | 206,293,870 | 現地活動費 | 0 |
| 現地派遣手当 | 20,860,446 | 現地派遣手当 | 0 |
| 現地雇用費 | 2,179,504 | 現地雇用費 | 0 |
| 輸送費 | 1,957,114 | 輸送費 | 399,856 |
| 車両費 | 4,868,802 | 車両費 | 313,631 |
| 通信費 | 13,239,939 | 通信費 | 3,740,733 |
| 医療費 | 8,804,962 | 医療費 | 189,168 |
| 備品費 | 369,843 | 備品費 | 145,693 |
| 事務消耗品費 | 4,026,031 | 事務消耗品費 | 808,518 |
| 記録費 | 415,140 | 記録費 | 82,149 |
| 会議費 | 2,824,202 | 会議費 | 129,283 |
| 旅費交通費 | 4,760,777 | 旅費交通費 | 2,162,233 |
| 図書購読料 | 58,109 | 図書購読料 | 260,723 |
| 福利厚生費 | 0 | 福利厚生費 | 4,522,821 |
| 水道光熱費 | 0 | 水道光熱費 | 55,706 |
| 給与手当 | 20,702,787 | 給与手当 | 23,091,298 |
| 業務委託費 | 1,483,783 | 業務委託費 | 303,720 |
| 印刷費 | 5,344,678 | 印刷費 | 898,296 |
| 賃借料 | 2,517,457 | 賃借料 | 2,341,730 |
| 修繕費 | 418,003 | 修繕費 | 33,351 |
| 雑費 | 940,994 | 雑費 | 577,756 |
| 広告料 | 99,895 | 広告料 | 218,536 |
| 支払会費 | 38,779 | 支払会費 | 433,500 |
| 租税公課 | 0 | 租税公課 | 20,200 |
| 支払利息 | 0 | 支払利息 | 401,014 |
| 減価償却費 | 0 | 減価償却費 | 1,669,984 |
| 合計 | 345,775,449 | 合計 | 43,044,669 |

厳正にAMDAの会計監査を行った結果、適正に執行されているものと認めます。

平成10年6月18日

会計監事 田 辺 稔 

平成10年6月18日

会計監事 藤 井 勢 輔 

1998年度 収支予算書

自1998.4.1 至1999.3.31 単位 千円

| 借 方 | | 貸 方 | |
|-----|---------|------|---------|
| 事業費 | 341,090 | 年会費 | 14,000 |
| 管理費 | 40,750 | 補助金 | 132,000 |
| 予備費 | 1,260 | 助成金 | 95,000 |
| | | 寄付金 | 138,000 |
| | | 販売収入 | 3,000 |
| | | 雑収入 | 800 |
| | | 広告収入 | 300 |
| 合 計 | 383,100 | 合 計 | 383,100 |

自1998.4.1 至1999.3.31 単位 千円

| 事業費、管理費合計 | | 事業費 | | 管理費 | |
|-----------|---------|--------|---------|--------|--------|
| 渡航費 | 39,000 | 渡航費 | 39,000 | 渡航費 | 0 |
| 保険料 | 4,300 | 保険料 | 4,000 | 保険料 | 300 |
| 現地活動費 | 205,000 | 現地活動費 | 205,000 | 現地活動費 | 0 |
| 現地派遣手当 | 21,000 | 現地派遣手当 | 21,000 | 現地派遣手当 | 0 |
| 現地雇用費 | 2,000 | 現地雇用費 | 2,000 | 現地雇用費 | 0 |
| 輸送費 | 2,450 | 輸送費 | 2,100 | 輸送費 | 350 |
| 車両費 | 4,200 | 車両費 | 3,800 | 車両費 | 400 |
| 通信費 | 15,800 | 通信費 | 13,000 | 通信費 | 2,800 |
| 医療費 | 9,000 | 医療費 | 9,000 | 医療費 | 0 |
| 備品費 | 500 | 備品費 | 400 | 備品費 | 100 |
| 事務消耗品費 | 4,650 | 事務消耗品費 | 4,000 | 事務消耗品費 | 650 |
| 記録費 | 450 | 記録費 | 400 | 記録費 | 50 |
| 会議費 | 1,950 | 会議費 | 1,800 | 会議費 | 150 |
| 旅費交通費 | 6,200 | 旅費交通費 | 4,200 | 旅費交通費 | 2,000 |
| 図書購読料 | 360 | 図書購読料 | 60 | 図書購読料 | 300 |
| 福利厚生費 | 4,450 | 福利厚生費 | 0 | 福利厚生費 | 4,450 |
| 水道光熱費 | 50 | 水道光熱費 | 0 | 水道光熱費 | 50 |
| 給与手当 | 43,000 | 給与手当 | 21,000 | 給与手当 | 22,000 |
| 業務委託費 | 1,700 | 業務委託費 | 1,350 | 業務委託費 | 350 |
| 印刷費 | 5,280 | 印刷費 | 4,800 | 印刷費 | 480 |
| 賃借料 | 5,100 | 賃借料 | 2,600 | 賃借料 | 2,500 |
| 修繕費 | 650 | 修繕費 | 450 | 修繕費 | 200 |
| 雑費 | 1,520 | 雑費 | 940 | 雑費 | 580 |
| 広告料 | 320 | 広告料 | 110 | 広告料 | 210 |
| 支払会費 | 510 | 支払会費 | 80 | 支払会費 | 430 |
| 租税公課 | 50 | 租税公課 | 0 | 租税公課 | 50 |
| 支払利息 | 450 | 支払利息 | 0 | 支払利息 | 450 |
| 減価償却費 | 1,900 | 減価償却費 | 0 | 減価償却費 | 1,900 |
| 合計 | 381,840 | 合計 | 341,090 | 合計 | 40,750 |

栃木便い

岩井 くに

サバ食うムシも…

(自治医科大学動物学助手)

☆

今年も紫陽花の鮮やかな季節がめぐってきました。今、医動物学実習の真っ最中です。今年も「思い出に残る実習(早い話が度肝を抜こうという趣旨)」目指して教員一同、準備に大わらわです。前日には「明日の実習に出てくる〇〇の特徴は…」と一夜漬けにいそしみ、当日は「ほらあ、教科書のこの図を見るとお」とこっそりカンニングしながら知ってる振りするのも例年通りです。「いやー、先生、一年でこんなに物知りになったんですか?」とビックリ顔の学生の傍らで、冷や汗を隠す私。この間は線虫実習と称し、「サバの内臓のアニサキス¹⁾を探す」生臭い実習を決行しました。まず、サバの入手です。夕飯のおかずには「新鮮で安全」がモットーですが、今回は「ぜったい寄生虫がいる」のが必須条件。寄生虫ネットワークで探し出した、寄生虫入りの魚に詳しい魚屋さんに見立ててもらい予備実験。「たぶん、ここにいるでしょう」と選りすぐったサバを開くと、いるいる…元気に動くアニサキスが10匹ほどみつき、ほっと安心。おもむろに魚を追加注文して、実習時間を待つばかり。さあ、学生がやってきました。1班に1匹ずつ配られたサバを、一生懸命、メスで開いているようすです。さて、アニサキスはいるかな?

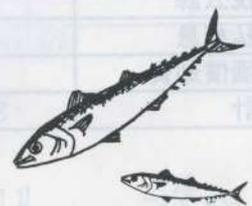
いるいる、さすが魚屋さん!どのサバにもアニサキスが丸まっています。「もう、いらな—い!」と飽きて放り出した班、「待て—!」と内臓の奥深く逃げ込んだアニサキスを割り箸片手に探し回ってるマニアックな学生。「臭い!」と鼻を摘んでトイレ休憩にいつちゃった人…18匹のサバから取り出されたアニサキスは計121匹にのぼりました。「お—い!サバは持ち帰って食べるように」「え—!先生、ボク魚料理なんてできません!」…「じ、じゃあ、作ったら食べる人!」我先に上がる手、手、手、…「ん—、わかった!サバの味噌煮を作っておくので、実習が終わったら希望者は研究室へ来るように!」さあ、私の仕事はサバの味噌煮作り。ショウガの輪切りと酒を入れた水を煮立ててさばを入れ、黒砂糖と蜂蜜、かつおだし入り味噌で味付けした味噌煮は手前味噌ながらなかなかの出来映え。あつと言う間になべいっぱいサバがみんなの胃袋に消えていきました。隣ではメサバを作っているM先生。あとはゆっくり教員だけで食べようと「メサバができるまでに1時間はかかる」と宣言したとたん、「え、1時間ですか?」

にこにこと座り込んだのは、学生たち。やられた!それから1時間、アジの塩焼き(10秒で骨だけになった)、つまみ、ビール…座り

込んだままの学生と宴会がはじまってしまいました。そうこうするうち、1時間経過。いよいよメサバの登場です。真剣に見てからおそろおそろ口に運ぶ人、見ないようにして一口にたべちゃう人、さまざまですが「おいしい!」とまたまたビールが進みます。「これで患者が出たらどうしよう…」内心ハラハラしている教員一同。

翌朝、救急部の先生に「昨晚、アニサキスの患者さんが来たんですよ」と声をかけられ、血の気が引いた私たちでしたが、患者さんは近所のスーパーでメサバを買って食べたとわかり、胸をなでおろしたのでした。ちなみに学生には患者出ず。さすが!

1) アニサキス:もともとはクジラやイルカなどの寄生虫。人が食べると激しい腹痛をおこす。酢では死なず、メサバは重要な感染源。殺すには-20℃で24時間、または56℃5分以上の加熱(中まで火がとおること)が必要



AMDA 神奈川支部便り

AMDA神奈川支部代表 小林 米幸

AMDA神奈川支部プロジェクト

ネパール看護婦学校、臨床検査技師学校生徒への奨学金制度

<あしながおじさんプロジェクト>

ご協力ください

1996年、ダマックのAMDA病院に附属看護学校・臨床検査技師学校が開設されました。補助看護・助産婦コース (Auxiliary Nurse Midwife 以下ANM)

は2年(18ヶ月)プラス実地研修5ヶ月(3ヶ月)定員40名で、臨床検査技師コース (Laboratory Assistant 以下LA) は1年 定員20名です。



実習中の看護婦たち

1997年9月には、地域保健士補コース (Community Medical Assistant 以下CMA) 15ヶ月プラス実地研修3ヶ月 定員40名、が開講となり、現在3つのコースが運営されています。1998年の入学は8月となります。

入学から卒業までかかるコースの授業料は、ANM19,450ルピー (約40,845円 1ネパールルピー=2.1円として)、LA20,500ルピー (約43,050円)、CMA17,950ルピー (約37,695円) となっています。

AMDAネパールあしながおじさんプロジェクトの概要

【ネパール・奨学生側】

- 学生選定基準 : 成績優秀であり、経済的に困難であるもの。AMDAネパール支部の推薦に基づく。
- 奨学金 : AMDAネパール支部が推薦した生徒に里親から集められた奨学金を原則としてAMDA神奈川支部の判断により支給する条件。
: 奨学金が授業料以外に充てられないこと。
: 授業風景、奨学生の感想をAMDAジャーナルに掲載。
: 奨学金を出して下さった方にネパール支部、神奈川支部を通じて手紙及び成績表を送付する。
: 卒業後は僻地またはブータン難民キャンプ等の地域医療に貢献する。

【日本・里親側】

- 金額 : 1人(グループでも可) 1口5,000円を出資。奨学生の入学時に一回、奨学生との交流。
: 奨学生から里親への手紙及び成績表が送付されます。AMDAでは手紙の翻訳はいたしません。
- 申し込み : 郵便振替への送金をもって申し込みとします。
口座番号 10240-6-6147271
口座名 AMDA神奈川支部 代表 小林米幸

AMDA 国際医療情報センター便り

1. 電話による相談(無料): 外国語の通じる医療機関の紹介、日本の福祉・医療制度案内など
2. 外国人医療問題に関するシンポジウム、セミナーの開催
3. 「11ヶ国語診察補助表」「9ヶ国語対応服薬指導の本」「16ヶ国語対応歯科診察補助」「両親学級の資料」の出版、販売
4. 東京都健康推進財団からの受託事業(センター東京)

センター東京 〒160-0021 東京都新宿区新宿歌舞伎町郵便局留

相談 TEL: 03-5285-8088

事務局 TEL: 03-5285-8086 - : 03-5285-8087

| | | |
|-------------------------------|-----|------------|
| 対応言語/時間: 英語、中国語、スペイン語、韓国語、タイ語 | 月～金 | 9:00～17:00 |
| ポルトガル語 | 月水金 | 9:00～17:00 |
| フィリピン語 | 水 | 9:00～17:00 |
| ペルシャ語 | 月 | 9:00～17:00 |

センター関西 〒556-0000 大阪市浪速区浪速郵便局留

相談/事務局 TEL: 06-636-2333 FAX: 06-636-2340

| | | |
|-------------------|-----|-------------|
| 対応言語/時間: 英語、スペイン語 | 月～金 | 9:00～17:00 |
| ポルトガル語 | 水 | 10:00～13:00 |
| 中国語 | 木 | 13:00～16:00 |

ホームページ <http://www.osk.3web.ne.jp/~amdack>

外国人無料健康診断に参加して

去る5月23日(土)に、びい〜・メディチン・たま(在日外国人医療ボランティアの会)が主催し、立川中央公民館で開かれた第5回外国人無料健康診断に参加しました。

この健診は、外国人であれば誰でも年齢に関係なく無料で受診できます。当日来た外国人は約125名。昨年来た人と今年初めて来た人が半々位でした。インドネシア人が集まる教会での口コミ宣伝のためか、インドネシア人が目立ち、次にペルー人、中国人、イラン人、バングラデッシュ人、ブラジル人、アフリカ出身の人と続きました。家族連れや友達と来ている人が多く、6ヶ月の赤ちゃんから80才位の方まで幅広い年齢層が見られました。中にはAMDA国際医療情報センターに電話をしたことがある人もいましたが、ほとんどの方がセンターの存在を知らず、パンフレットを配ったとき良い情報を得たと喜んでいらっしゃいました。

ボランティアで来られていた医師は、主催団体の代表者である田中先生のほか5名で、健康診断を受けた

後、医療相談コーナーで内科、整形外科、精神科、小児科の先生が個別の相談にのり、病院へ行く必要がある人には、紹介状を書き病院を探すと伝えていらっしゃいました。普段我慢して病院に行っていない人が、この時とばかり時間をかけてたくさん相談しているようでした。健康な人もいれば以前心臓発作を起こした深刻な問題を抱えている人もいました。

医師のほかに、ボランティアとして医療従事者(保健所の方、保健婦、看護婦)や立川市国際交流協会関係者、立川市民など約40名の方たちが参加していらっしゃいました。ボランティアを希望する人は誰でも受け入れるということで、当日健診を受けた日本語の上手なインドネシア人が、通訳ボランティアに変身していたりもしました。田中先生の考えは、“楽しくボランティアをする”なので、仕事分担も強制されたものでなく、参加者がやりたいことを自由に選び、楽しみながら仕事をしていました。ちなみに私は視力検査の機械を担当し、視力を記録したり、お茶を飲むコーナーでセンターのパンフレットを配りながら説明

をするなどしました。

検査項目は、身長/体重/血圧/視力測定、歯科健診、心電図、胸部レントゲン、尿検査、血液検査(貧血、肝、コレステロール等)、問診で、順路がしっかり決まっています。順路の案内をする人、検査もれがないかチェックする人がいました。また、医療機器や道具は200人が来ても大丈夫のように用意されていました。レントゲン車も心電図の機械も先生の力で、ただで手配されたのには驚きました。健診の途中には、着物を着た人が日本の伝統的なスタイルでお抹茶を入れ、お菓子とともに供するコーナーがあり、日本文化

を楽しみ、ボランティアと健診に来た人たちの交流の場になっていました。意外な発想ですが、お茶のコーナーは皆さんがくつろげる良いアイデアだと思いました。

この外国人無料健康診断では、楽しく充実した時間を過ごすことができ、また外国人の方たちにセンターの存在を知っていただく良い機会になりました。このように今後は紙面上だけではなく、公共の場で地道な口コミによりセンターの存在を知らせていきたいと思えます。

(センター東京/N)



AMDA国際医療情報センター出版物のご案内

ご注文、お問い合わせはセンター東京、センター関西事務局まで

「16ヶ国語対応 歯科診察補助表」-Dentist / Patient Conversation Aid in 16 Languages-

外国人が安心して歯科医院にかかることができるよう、また、医療機関・医療従事者が外国人の治療に関わる事項を正確に伝えることができるよう、必要最低限の内容を16ヶ国語に翻訳し出版いたしました。受付での会話、受診理由、症状、麻酔や抜歯の経験等の内容が1言語19頁にわたり掲載されております。

構成言語：英語、スペイン語、ポルトガル語、中国語、韓国語、ペルシャ語、タイ語、ラオス語、カンボジア語、ベトナム語、ベンガル語、フィリピン語、ロシア語、フランス語、インドネシア語、マレー語
・AMDA国際医療情報センター編

B5版 325ページ 定価 5,250円(税込み)

「11ヶ国語診察補助表」-Physician / Patient Conversation Aid in 11 Languages-

実際の診療の流れに沿って、「受付にて」「患者から医師へ」「医師から患者へ」の3部より構成。日本語と外国語との併記により外国人患者の診察にすぐ役立ちます。

構成言語：英語、スペイン語、ポルトガル語、韓国語、中国語、フィリピン語(タガログ語)、タイ語、ベトナム語、カンボジア語、ラオス語、ペルシャ語
・AMDA国際医療情報センター編

11ヶ国語1組 A4版 定価 5,250円(税込み)

「9ヶ国語対応 服薬指導の本」-Conversation Aid for Obtaining Medicines in 9 Languages-

外国人に安全に薬を使用してもらうため、また外国人に薬の使用法を正確に伝えるため、必要な情報を掲載。どのような症状があり、どのような薬が欲しいのか、病歴・アレルギーの有無、定期的に服用している薬、服用時の注意事項、副作用の説明など。日本人が世界各国へ旅行や海外出張に行く場合にも便利です。

構成言語：英語、スペイン語、ポルトガル語、韓国語、中国語、フィリピン語、タイ語、ベトナム語、ペルシャ語

・AMDA国際医療情報センター編

B5版 154ページ 定価 5,250円(税込み)

「両親学級の資料」

AMDA国際医療情報センター関西が1997年夏に開催した外国語による両親学級の資料。

ポルトガル語、スペイン語、中国語、英語がそれぞれ日本語と併記されています。

- ①妊娠中の過ごし方と母子保健に関わる制度について
- ②出産のしくみと経過、産後の注意、育児について

・AMDA国際医療情報センター関西編

各言語別売り A4版 1言語2冊1組 1,000円(1冊 500円)(税込み)

 **クラヤ薬品(株)**

〒102-0094

東京都千代田区紀尾井町 3-12 紀尾井町ビル

TEL 03-3238-2700 (代表)

産婦人科 心療内科
OB / GYN / PSYCHOTHERAPY

伊勢佐木クリニック

ISEZAKI WOMAN'S CLINIC

〒231-0045 横浜市中区伊勢佐木町 3-107

Kビル伊勢佐木 2階

TEL 045-251-8622

内科 (老人科)・理学診療科

医療法人社団 慶成会

 **青梅 慶友病院**

〒198-0014 東京都青梅市大門 1-681 番地

●入院のお問い合わせ TEL 0428-24-3020 (代表)

院長 大塚 宣夫

循環器科・内科・心臓血管外科

医療法人社団

 **北光循環器病院**

理事長 太田 茂樹

〒065-0027 札幌市東区北 27 条東 8 丁目

TEL 011-722-1133 FAX 011-722-0501

内科・理学診療科

医療法人

**福川内科
クリニック**

大阪市東成区東小橋 3-18-3

ボンゲービル 4F (住友銀行鶴橋支店前)

TEL 06-974-2338

診療時間

午前 9:30~12:30 午後 3:30~6:30

土曜日 午前 9:30~午後12:30

日曜日 午前10:00~午後12:30

休診日 木曜日、祝日、最終日曜日



医療法人社団

慶 泉 会

● **町谷原病院**

外科 肛門科 泌尿器科
整形外科 形成外科
脳神経外科 内科

〒194-0003 東京都町田市小川 1523

TEL 0427-95-1668

● **町谷原クリニック
人工透析センター
リハビリセンター**

〒194-0003 東京都町田市小川 1530-6

TEL 0427-99-6500

あなたのために、いいものを……

ラフォーレ 緑
La forêt 緑

倉敷市水島北春日町13-18
TEL 086-448-6011

広告募集中!
お申し込みは

(株) JR西日本コミュニケーションズ
086-223-6964 岩井

(株) 新通エス・ピー・センター
06-533-6191 青山

16ヶ国語対応

「歯科診察補助表」

英語、スペイン語、ポルトガル語、中国語、韓国語、ベルシャ
語、タイ語、ラオス語、カンボジア語、ベトナム語、ベン
ガル語、フィリピン語、ロシア語、フランス語、インドネシ
ア語、マレー語

受付での会話、受診する理由、症状、麻酔や抜歯の経
験、医師からの治療についての説明、診療時の指示、治
療後の注意事項、次回の予約など内容が1言語19ペー
ジに渡り掲載されています。

本体 **5,000円** (消費税・送料別)

●お問い合わせ、お申し込み先:

センター東京 電話 03-5285-8086

センター関西 電話 06-636-2333

内科 消化器科 整形外科 神経内科
精神科 理学診療科



医療法人社団 永生会

永生病院

脳ドック
老人保健施設
イマジン開設

774床

◆人間ドック 企業健診◆

〒193-0942 東京都八王子市栲田町 583-15

TEL 0426-61-4108



医療法人社団

**三好耳鼻咽喉科
クリニック**

院長 三好 彰

〒981-3133 仙台市泉区泉中央 1-23-6

みなよい みよしさん

TEL 022-374-3443

FAX 022-378-3886

有限会社 **都 商 会**

サリー薬局 〒214-0021 川崎市多摩区宿河原 2-31-3 ☎ 044-933-0207

エリー薬局 〒214-0001 川崎市多摩区菅 6-13-4 ☎ 044-945-7007

マリー薬局 〒214-0036 川崎市多摩区南生田 7-20-2 ☎ 044-900-2170

十字路薬局 〒211-0068 川崎市中原区小杉御殿町 2-96 ☎ 044-722-1156

セリー薬局 〒216-0003 川崎市宮前区有馬 5-18-22 ☎ 044-854-9131

アミー薬局 〒242-0005 大和市西鶴間 3-5-6-114 ☎ 0462-64-9381

マオー薬局 〒242-0021 大和市中心 5-4-24 ☎ 0462-63-1611



お手本は、
自然の中
にありま
した。

アクリル



小さな知恵から、
豊かな未来へ。

全農

♣ 消化器科・外科・小児科 ♣

小林国際クリニック

Kobayashi International Clinic

小林国際医院

診療時間：平日 10月曜日～金曜日 9:15～12:00 / 14:00～17:00

土曜日 9:15～13:00

休診日 水曜日、日曜日、祝祭日

☎ **0462-63-1380**

神奈川県大和市西鶴間 3-5-6-110

小田急江ノ島線・鶴間駅下車徒歩4分

駐日ザンビア大使、AMDAへ

7月10日、AMDAのザンビアにおけるプロジェクト支援のため、「ザンビアの子どもたちを支援するキャンペーン：ジャスコ主要148店舗の紳士服売場にて紳士服の下取りを実施」を行って下さっていたジャスコ岡山店において、紳士服2000着とミシン等支援物資の贈呈式が行われました。この式典には駐日ザンビア共和国ライソン・ポテファ・テンボ大使も出席され、ジャスコ西部カンパニー松井支社長より「ザンビアの子どもたちや女性のための支援活動に活用して下さい」と、菅波代表に目録が手渡されました。贈呈式の後、すこやか苑においてAMDA主催の大使歓迎夕食会を開催しました。夕食会の席上ザンビア大使は「岡山の皆さんのあたたかい歓迎に心から感謝いたします。このように一人一人が世界平和や貧困について考えてくれることはとても大切なことであり、「思いやる心」を育てることは、21世紀にむけて、重要なことと考えています。ザンビアは平和な国で国土も豊かなのですが、非常に貧しい国です。

私共は産業技術等の向上を図るなど、日々貧困と闘っています。どうぞこれからもご支援をお願いします。」と語られた。

ジャスコはかねてより社会貢献活動の一環としてAMDAの活動を支援して下さるためにネパール支援バザーやルワンダ支援バザーも開催して下さっています。

AMDAでは今年3月14日にAMDAザンビア支部を開設し、子どもたちの栄養改善を目的とした母親の自立支援のための「職業訓練」プロジェクト等を実施する予定ですが、ジャスコからの支援物資はこれらのプロジェクトのために有効に使わせていただきます。



岡山大学付属小学校を訪問されたザンビア大使

AMDA スタディツアーのご案内

■フィリピンスタディツアー 8月23日～8月29日 187,000円

AMDA 国際ボランティアセンター・現地 NGO 視察 他

YMCA エデュケーショナルトラベル 担当：瀬良 082-222-3003

(NGO カレッジ受講生対象ツアーですが、一部一般公募いたします)

■ネパールスタディツアー 11月1日～11月8日 約20万円

AMDA ネパール子ども病院開所式参加 他

(株) エフサンツーリスト 担当：長谷川 03-3661-2101

(エフサンツーリストは事務所移転のため以前お知らせした電話番号は変更されました)



AMDA Journal に関するお問い合わせは、AMDA 広報局 TEL 086-284-7730 まで

ご入会、会費、ご寄付、その他ご購入のための振込は、本誌綴じ込みの郵便振替用紙をご使用になるか、下記口座をご利用下さい。いずれも振込目的を明記して下さい。

■中国銀行一宮支店(普通) 口座番号1272011 口座名 AMDA

■第一勧業銀行岡山支店(普通) 口座番号1816947 口座名 AMDA

■クレジットカード(全日信販のAMDAカード)での会費納入方法もあります。

AMDA カードについてのお問い合わせは、全日信販株式会社 本社営業部 086-227-7161です。

AMDA ホームページ
http://www.amda.or.jp

NEO TRADITIONAL

古き良き時代のレーシングフィールドの興奮を現代に、

“本物だけが、歴史を創造する。” 人間と機械の優雅なハーモニー。

伝統の優れた機能を最新の技術で引き出し、古典的な優美さを芸術性豊かに醸し出す。

ネオ・トラディショナル レーシングタイプドラムブレーキ



KR kanrin (株)カンリン 〒702-8001 岡山市沖元464
TEL.086-274-3056 FAX.086-277-8115

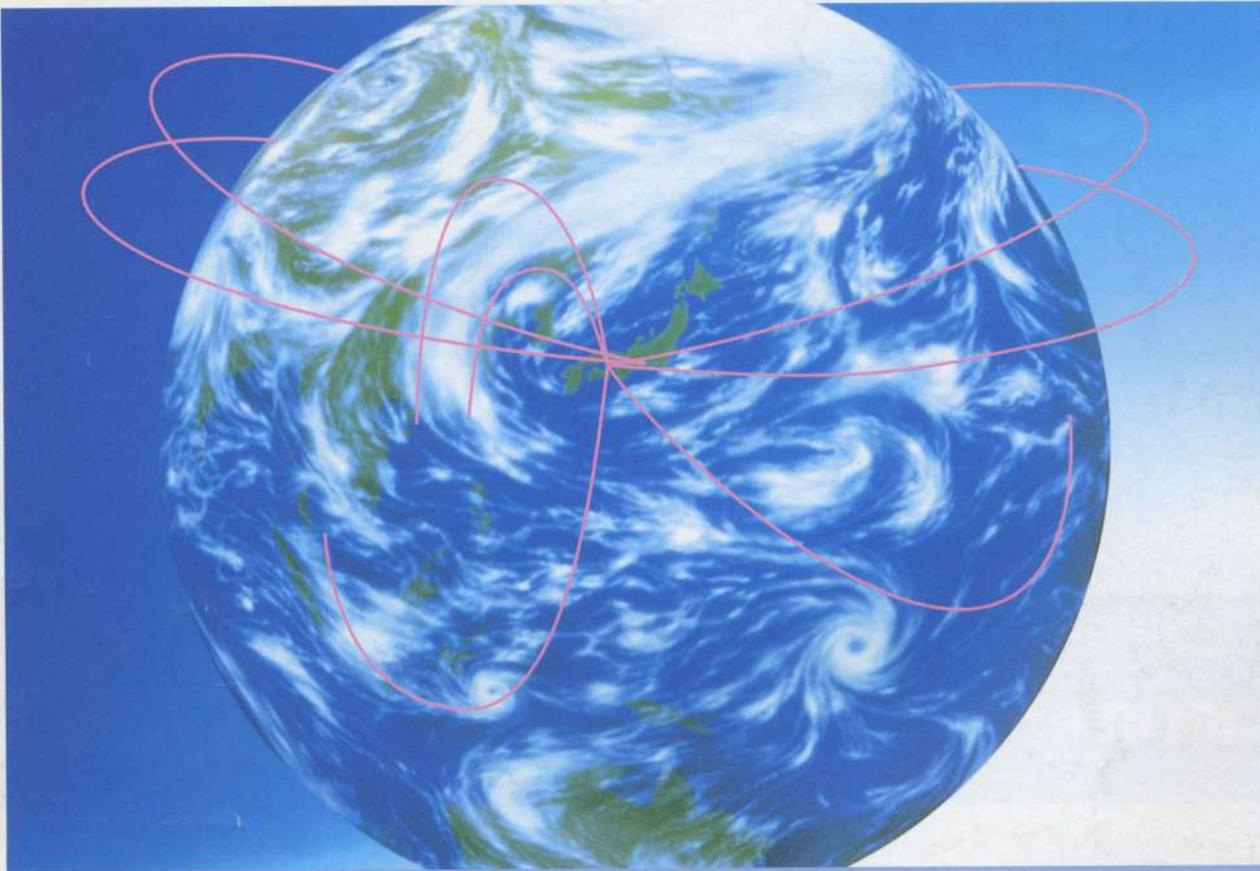
クラッチの頂点を駆ける。



OS Racing Power Unit & Parts Development
GIKEN Co., Ltd.

〒702-8001 岡山市沖元464 TEL.086-277-6609 FAX.086-277-8115

心をつなぐ文化の架け橋



四季折々の和菓子や器を通して日本の美しい文化を
世界中の人々に、そして後世に伝え残したい。
和菓子の世界だけにとどまらず、
文化を通じて人々の心をひとつにできれば……。
そんな思いを込めて、地球サイズでの店舗展開を進めています。
安らぎの場と文化・芸術に親しんでいただくことで
源 吉兆庵が文化の架け橋となれることを願って……。



ニューヨーク五番街店

岡山本店

ロンドンピカデリー店

NEW YORK / 608 FIFTH AVENUE, NEW YORK, NY10020 USA
/ YAohan PLAZA 595 RIVERROAD, EDGEWATER, NJ07020 USA
LONDON / 44 PICCADILLY LONDON W1V 9AJ UK
/ LONDON SOGO DEPT. STORE THE CRITERION BLDG. PICCADILLY CIRCUS LONDON W1V 9LB UK
SINGAPORE / TAKASHIMAYA DEPT. STORE 391-A ORCHARD ROAD #B2-03-6, SINGAPORE 238873
TAIPEI / DAYEH TAKASHIMAYA DEPT. STORE NO.55 SEC.2 CHUNG CHENG RD. SHIH LIN DIS, TAIPEI, TAIWAN
/ PACIFIC SOGO DEPT. STORE NO.45 SEC.4 CHUNG HSIAO E. RD. TAIPEI, TAIWAN
HONG KONG / HONG KONG DAIMARU KINGSTON ST. CAUSEWAY BAY, HONG KONG
HAWAII / JAL WAIKIKI PLAZA 2272 KALAKAUA AVENUE HONOLULU HI 96815 USA

TEL (1)212-489-3747
TEL (1)201-313-9335
TEL (44)171-437-3135
TEL (44)171-839-3146
TEL (65)735-1315
TEL (886)-2-831-7624
TEL (886)-2-711-9712
TEL (852)2577-5702
TEL (1)808-924-3655

みなもと きつ ちゆう あん
源 吉兆庵



Minamoto Kitchoan
NEW YORK LONDON SINGAPORE TAIPEI HONG KONG HAWAII

本 店 岡山市東区新町1丁目24-21 電話 0861 263-2651 (代)